

令和4年度 希望ヶ丘高等学校 全日制 年間指導計画

教科・科目	国語・現代文B	学年	第3学年	教科書	大修館書店「現代文B 改訂版 上巻・下巻」
		単位数	2単位	副教材	いっずな書店「TOP2500」、第一学習社「新国語便覧」、尚文出版「3ステップ 完成現代文3」、自主作成教材

学習目標	近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。
------	--

学習方法	<p>予習: 本文に出てくる新出単語を辞書等で調べておく。</p> <p>授業: 単元ごとにメリハリをつけ、授業の内容によって身につく力を意識しながら授業に挑む。</p> <p>復習: 授業で疑問に残った点はきちんと質問をする。</p> <p>その他: 副教材の問題集を定期的に自習に使い、自己の国語力の向上に努める。</p> <p>何より多くの本を読む。</p>
------	--

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨	
	a	関心・意欲・態度	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。□	
b	話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話したり、的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。		
c	書く能力	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。		
d	読む能力	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。		
e	知識・理解	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身につけている。		

学期	内容のまとめ	単元(題材)	時数	学習内容	評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d	e		
前期	評論(一) ヒューマニズムと知性	文明と文化の教育	4	本文全体の論理展開を理解し、筆者の主張を捉える。					○	c: 課題に応じて、収集した様々な情報を分析し、自分の考えを表現している。 d: 文章を読んで、構成、展開要旨などを的確に捉えている。 e: 語句の意味を理解し、語彙を豊かにしている。	定期テスト提出物(ノート) 成果物(作文)
				テーマについて書かれた複数の文章を読み比べ、内容について自分の意見を書く。				○			
				本文の初出の語句の意味を調べ、正しく使う。				○			
	近代の小説一	舞姫	9	「古典的概念観」と「プロトタイプ」の考え方の違いを理解する。					○	a: 文章を読んで、人物、心情の描写などを的確に捉えて表現を味わおうとしている。 d: 文章を読んで、人物、心情の描写などを的確に捉えて表現を味わっている。 e: 語句の意味や用法を理解している。	定期テスト提出物(ノート) 成果物(作文)
「相貌を見る」の意味を理解する。							○				
評論の読み方についての理解を深める。							○				
生命と多様性	生物多様性の恩恵	5	文章を読み、筆者の意見を捉えとともに自然や社会といったテーマについて考察しようとする。	○					a: 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などに関する自分の考えを深めようとしている。 d: 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などに関する自分の考えを深めようとしている。 e: 語句の意味を的確に理解している。	定期テスト提出物	
			文章を読み、筆者の意見を捉えとともに自然や社会といったテーマについて考察する。				○				
			語句の意味やテーマに関する知識を習得する。				○				
身体と哲学	こころは見える	5	文章に出てくる5W1Hや登場人物の心情等を理解しようとする。	○					c: 課題に応じて、収集した様々な情報を分析し、自分の考えを表現している。 d: 文章を読んで、構成、展開要旨などを的確に捉えている。 e: 語句の意味を理解し、語彙を豊かにしている。	定期テスト提出物(ノート) 成果物(作文)	
			文章に出てくる5W1Hや登場人物の心情等を理解する。				○				
			語句の意味や比喩などの表現を理解する。				○				

六 文学の言葉	無常ということ	11	文章を読み、筆者の意見を捉えるとともに自然や社会といったテーマについて考察しようとする。	<input type="radio"/>							a: 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などに関する自分の考えを深めようとしている。 d: 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などに関する自分の考えを深めようとしている。 e: 語句の意味を理解し、語彙を豊かにしている。	定期テスト 提出物 (ノート) 成果物 (作文)
			文章を読み、筆者の意見を捉えるとともに自然や社会といったテーマについて考察する。					<input type="radio"/>				
			文章に出てくる語句の意味を理解し、語彙を豊かにする。					<input type="radio"/>				
後期	入試問題演習	過去問題	16	入試問題を読み解く。						<input type="radio"/>	d: 形式に従って文章を理解している。 e: 知識、理解を高める。	定期テスト
	入試問題演習	過去問題	20	入試問題を読み解く。						<input type="radio"/>	d: 形式に従って文章を理解している。 e: 知識、理解を高める。	定期テスト
授業時数(50分授業)		70										

令和3年度 年間指導計画

教科・科目	国語・古典探究	学年	3年	教科書	古典B(数研出版)
		単位数	3単位	副教材	完全マスター古典文法(第一学習社)・Key&Pointみるみる覚える古文単語300(いっずな書店)・体系漢文(数研出版)・新国語便覧(第一学習社)・完全マスター古典文法準拠ノート(第一学習社)・体系漢文準拠ワーク(数研出版)・共通テスト+センター試験国語 過去問題集(尚文出版)

学習目標	1、2年次に修得した古典の知識をさらに深め、様々な古文・漢文を読む能力を養うとともに、生涯にわたって古典に親しむ態度を育成する。
------	--

学習方法	<ul style="list-style-type: none"> 古文・漢文の両分野について、文法や句法・語法などの確認をし、演習を重ねて内容を正確に読み取る力を養う。 入試問題の演習を中心に実施し、作品世界に深い理解を持つことを目指す。
------	---

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨		
	a	関心・意欲・態度	言語文化や伝統に対する関心を深め、国語を尊重して、進んで古典に親しもうとする。		
	b	読む能力	古典に表れた思想や感情を的確に読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。		
	c	知識・理解	古典の理解に役立てるための音声、文法、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身につけている。		

学期	内容のまとめ	単元(題材)	時数	学習内容	評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c		
前期	随筆	物語 「源氏物語」 「住吉物語」	10	内容把握			○	a:1,2年次の復習をし、読解に役立てている。 b:主語の特定や指示語の指示内容に注意しながら読み進め、話の展開を正確に捉えることができる。 c:重要語句や敬語を理解し活用することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験 小テスト 行動観察
				語法・文法理解	○		○		
				用言・助動詞の復習	○		○		
	漢文 逸話	逸話	6	内容把握			○	a:訓読、書き下しの復習をし、読解に役立てている。 b:逸話の形態を理解し、故事の由来を読み取ることができる。 c:重要語及び否定の句法を理解し、活用することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験 小テスト 行動観察
				語法・文法理解			○		
				訓読・書き下しの復習	○				
	日記文学	「蜻蛉日記」 「紫式部日記」 「十六夜日記」	14	内容把握	○	○		a:日記文学の自照性を理解し、古典をより深く読み味わっている。 b:和歌の修辞技法に着目し、的確に和歌を読解鑑賞することで、登場人物の心情を理解することができる。 c:和歌の修辞技巧を理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験 小テスト 行動観察
				語法・文法理解			○		
				和歌の修辞			○		
	漢文 随筆	売油翁	6	内容把握			○	a:作品の立ち位置を理解しようとしている。 b:筆者の主張を読み取ることが出来る。 c:文中の重要語・感嘆、限定、疑問の句法を理解し、読解につなげることが出来る。	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験 小テスト 行動観察
				語法・文法理解			○		
				作品理解	○				
評論	「無名草子」 「無名抄」	15	内容把握			○	a:作品全体のあらすじを理解している。 b:敬語表現と手がかりにシつ、登場人物の言動を追い、細やかな心の動きを読み取ることができる。 c:敬語を正しく理解し、読解につなげることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験 小テスト 行動観察 	
			語法・文法理解			○			
			作品理解	○					

学期	内容のまとめ	単元(題材)	時数	学習内容	評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c		
後期	漢文 史伝	「史記」 伯夷・叔齊 廉頗・藺相如	10	内容把握		○		a:作品の歴史的背景を理解している。 b:登場人物の関係を的確に把握することができる。 c:文中の重要語・句法を理解し、読解につなげることができる。	・定期試験 ・小テスト ・行動観察
				語法・文法理解			○		
				歴史的背景の理解	○				
	入試問題を解く Ⅰ	センター試験漢文	6	内容把握	○	○		a:既習の学習内容を、読解に役立てている。 b:内容を正確に理解し、正解を導くことができる。 c:語句の意味、用法及び文の構造を理解し正解を導くことができる。	・定期試験 ・小テスト ・行動観察
		センター試験古文	8	語法・文法理解	○		○		
	入試問題を解く Ⅱ	私立大学・国公立 二次試験入試問題 漢文	15	内容把握	○	○		a:既習の学習内容を、読解に役立てている。 b:内容を正確に理解し、正解を導くことができる。 c:語句の意味、用法及び文の構造を理解し正解を導くことができる。	・定期試験 ・小テスト ・行動観察
私立大学・国公立 大学二次試験入試 問題古文		15	語法・文法理解	○		○			
授業時数(50分授業)			105						

令和4年度 希望ヶ丘高等学校 全日制 年間指導計画

教科・科目	国語・古典講読	学年	第3学年	教科書	なし
		単位数	2単位	副教材	数研出版「古典B 古文編」・いっずな書店「プログレス古典総演習発展編」

学習目標	1、2年次に習得した古典の知識をさらに深め、古典としての古文、漢文を読む能力を養うとともに、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を養う。
------	--

学習方法	<ul style="list-style-type: none"> 古文漢文の両分野について、文法や句法・語法などの確認をしながら内容を正確に読み取る力を養う。 私立大学試験レベルの問題演習を中心にを行い、作品世界に深い理解を持つことを目指す。
------	---

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度	言語文化や伝統に対する関心を深め、国語を尊重して、進んで古典に親しもうとする。
	b	読む能力	古典に表れた思想や感情を的確に読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。
	c	知識・理解	古典の理解に役立てるための音声、文法、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身につけている。

学期	内容のまとめ	単元(題材)	時数	学習内容	評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c		
前期	古文	随筆 説話	6	内容把握	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	a: 予定された小テストを通じて文章理解に取り組む。 b: 語句や表現に即して内容を詳しく読み取っている。 c: 文中の用言、副詞、品詞分解を把握し、識別ができる。	授業中の演習・試験・小テスト	
				語法・文法理解	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
				解法理解	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
	漢文	歴史	5	内容把握	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	a: 予定された小テストを通じて文章理解に取り組む。 b: 語句や表現に即して内容を詳しく読み取っている。 c: 重要語句や疑問、反語の句法を把握している。	授業中の演習・試験・小テスト	
				語法・文法理解	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
				解法理解	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
	古文	日記文学	8	内容把握	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	a: 予定された小テストを通じて文章理解に取り組む。 b: 語句や表現に即して内容を詳しく読み取っている。 c: 文中の助詞、品詞分解を把握し、識別ができる。	授業中の演習・試験・小テスト	
				語法・文法理解	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
				解法理解	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
	漢文	文章	6	内容把握	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	a: 予定された小テストを通じて文章理解に取り組む。 b: 語句や表現に即して内容を詳しく読み取っている。 c: 重要語句や使役、受身、再読文字、詠嘆、願望の句法を把握している。	授業中の演習・試験・小テスト	
語法・文法理解				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
解法理解				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
古文	物語	9	内容把握	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	a: 予定された小テストを通じて文章理解に取り組む。 b: 語句や表現に即して内容を詳しく読み取っている。 c: 文中の敬語、品詞分解を把握し、識別ができる。	授業中の演習・試験・小テスト		
			語法・文法理解	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
			解法理解	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
後期	漢文	思想・漢詩	7	内容把握	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	a: 予定された小テストを通じて文章理解に取り組む。 b: 語句や表現に即して内容を詳しく読み取っている。 c: 重要語句や抑揚、限定、比況、選択の句法を把握している。	授業中の演習・試験・小テスト	
				語法・文法理解	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
				解法理解	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
					<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
	古文	評論	9	内容把握	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	a: 予定された小テストを通じて文章理解に取り組む。 b: 語句や表現に即して内容を詳しく読み取っている。 c: 扱った作品の文学的知識を把握している。	授業中の演習・試験・小テスト	
				語法・文法理解	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
				解法理解	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
	古文	入試問題演習	6	内容把握	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	a: 予定された小テストを通じて文章理解に取り組む。 b: 語句や表現に即して内容を詳しく読み取っている。 c: 文中の用言、副詞、品詞分解を把握し、識別ができる。	授業中の演習・試験・小テスト	
				語法・文法理解	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
				解法理解	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
漢文	入試問題演習	14	内容把握	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	a: 予定された小テストを通じて文章理解に取り組む。 b: 語句や表現に即して内容を詳しく読み取っている。 c: 文中の用言、副詞、品詞分解を把握し、識別ができる。	授業中の演習・試験・小テスト		
			語法・文法理解	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
授業時数(50分授業)			70						

令和4年度 希望ヶ丘高等学校 全日制 年間指導計画

教科・科目	国語・古典研究	学年	第3学年	教科書	副教材	尚文出版「共通テスト+センター試験国語 過去問題 平成28～令和3年プレテスト古典版」、いっずな書店「Key&Pointみるみる覚える古文単語300+敬語30」、第一学習社「完全マスター古典文法(新版五訂)」 「完全マスター古典文法 準拠ノート」、教研出版「体系漢文」「体系漢文準拠ノート」
		単位数	2単位			

学習目標	1、2年次に修得した古典の知識をさらに深め、様々な古文・漢文を読む能力を養うとともに、生涯にわたって古典に親しむ態度を育成する。				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> 古文・漢文の両分野について、文法や句法・語法などの確認をしながら内容を正確に読み取る力を養う。 センター試験レベルの問題演習を中心に行い、作品世界に深い理解を持つことを目指す。 				
学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨		
	a	関心・意欲・態度	言語文化や伝統に対する関心を深め、国語を尊重して、進んで古典に親しもうとする。		
	b	読む能力	古典に表れた思想や感情を的確に読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。		
	c	知識・理解	古典の理解に役立てるための音声、文法、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身につけている。		

学期	内容のまとめ	単元(題材)	時数	学習内容	評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c		
前期	易しいレベルの漢文演習	センター試験演習、漢文問題演習第1回～6回	8	作品の読解	○		○	a b:基本句法などに注意して文脈をとらえ、漢文の典型的な表現や構成を理解する。 c:再読文字・疑問形・反語形・使役形・否定形などに習熟する。	小テスト 定期テスト
				再読文字・助字等句法の復習		○	○		
	易しいレベルの古文演習	センター試験演習、古文の問題演習第1回～6回	9	作品の読解	○	○		ab::短時間で正しく内容を把握し、登場人物の心情等を読み取る。 c:基本古語の意味を復習し身につけている。 c:用言・助動詞・助詞などの文法知識を確実にしている。	小テスト 定期テスト
				基本古語の確認			○		
センター試験レベルの漢文演習	センター試験演習、漢文問題演習第7回～12回	8	作品の読解	○			a:漢文の背後に含まれた思想や歴史を理解している。 b:内容を構成や展開に即して的確に捉えることができる。 c:句法・語法の知識を身につけている。	小テスト 定期テスト	
			語句の確認		○	○			
センター試験レベルの古文演習	センター試験演習、古文の問題演習第7回～12回	9	作品の読解	○			a:和歌・有職故実・思想・文学史など古典の知識を深める。 b:古語の知識を身につけ思想・感情を読み取ることができる。 c:敬語・助動詞・助動詞・和歌修辭の知識を身につけている。	小テスト 定期テスト	
			古語の確認		○	○			
後期	センター試験の過去問題演習①漢文	センター試験の過去問題を解く	8	作品の読解	○	○		ab:漢詩・中国文学史などの古典の理解を深め、作品を読み取ることができる。 c:漢文の句法・語法や漢詩の形式などを学習し身につけている。	小テスト 定期テスト
				句法・語法の理解			○		
					漢詩・中国文学史の理解	○	○		
後期	センター試験の過去問題演習②古文	センター試験の過去問題を解く	8	作品の読解	○			a:和歌・有職故実・思想・文学史など古典の知識を深める。 b:古語の知識を身につけ思想・感情を読み取ることができる。 c:敬語・助動詞・助動詞・和歌修辭の知識を身につけている。	小テスト 定期テスト
				古語の確認		○	○		
					文法知識の習得			○	
後期	センター試験の予想問題演習	センター試験の予想問題を解く	20	作品の読解	○	○		a:和歌・有職故実・思想・文学史など古典の知識を深める。 b:古語の知識を身につけ思想・感情を読み取ることができる。 c:敬語・助動詞・助動詞・和歌修辭の知識を身につけている。 c:リード文や注の気をつけて読解力・回答する能力を高める。	小テスト 定期テスト
				古語の確認		○	○		
				文法知識の習得			○		
				センター試験の対応			○		
授業時数(50分授業)			70						

令和4年度 希望ヶ丘高等学校 全日制 年間指導計画

教科・科目	地理・歴史・日本史探究	学年	第3学年	教科書※	山川出版 詳説日本史B
		単位数	4単位	副教材※	帝国書院 図説日本史通覧 とうほう 新編史料日本史

学習目標 古代から近世までの歴史を中心に、事実に基づいて把握し、歴史的な背景や構造、さらにはその変化の過程を理解するとともに、古代日本国家の成立から江戸時代幕末までの歴史を多角的に理解する能力を養う。また、主に東アジア諸国との国交のあり方や諸外国との力関係などを理解することで、近代以降の日本の外交政策の改善点や反省点を再確認し、同時に歴史と伝統ある日本の文化に触れ、それを理解することで、今後の国際社会に生きる日本人としての自覚と資質及び歴史的思考力を養う。

学習方法 「歴史は変化である」、大きな流れを理解することをおすすめる。また、「歴史は鏡である」、人生はリセットできない、試みに生きることはいらない。だから、先人たちがどのようにその時々で決断し行動したかを学ぶ事によって自分自身の生き方を写す鏡となる。自分自身が主人公になって、その時々どう考え行動するか考えてみよう。① 大きな流れをつかむためには教科書を一読しよう。② 図録(資料集)はテーマごとにまとまっており流れを理解するのに大変役立つので、大いに活用して欲しい。③ 授業では黒板やプリントでまとめをするので、各自でノートやファイルを用意して、自分なりのまとめ方をしてみよう。④ 授業に集中し、しっかりノートを作りましょう。テストはノートやプリントから出ます。授業で先生が板書したことは勿論、話した内容もノートに取り、これは大事だと思ったところをマークし、覚えるようにしましょう。

評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
a	関心・意欲・態度	○日本の文化・歴史に対する関心・意欲、課題を追求する意欲 ○国際社会のなかでの、日本の果たす役割を自覚し実践しようとする態度
b	思考・判断・表現	○それぞれの時代特徴と課題を見出す思考 ○各時代の文化の変遷とつながりを考え、それらを現代にどう生かすかを判断する能力
c	資料活用・技能	○各時代の文化・歴史に関する各種資料を収集・活用・表現する技能 ○学習内容・学習結果の整理と発表に関する方法
d	知識・理解	○日本の政治・経済・文化・社会、及び諸外国との関わりに関する知識 ○歴史的事項や諸外国との関係を多面的に理解する力

※ 定期テストに関しては、上記四つの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。

学期	内容のまとめ	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法	
				a	b	c	d			
一学期	全時代概観	時代区分	2	日本史の時代区分と各時代の様子		○	○	○	b. 時代区分と時代名がなにもに基づいているか。考え理解できているか。 d. 各時代の様子がだまかに捉えられているか。	定期テスト/課題
		文化のあけぼの	10	文化のはじまり 農耕社会の成立 古墳とヤマト政権		○	○	○	a. 原始・古代の人々の生活に興味をもって学習に取り組んでいるか。 b. 遺跡・遺物から当時の様子や人々の生活を見いだせるか。 c. 史料をよみこなしその内容を理解できるか。 d. 代表的な遺跡や当時の人々の生活を理解できるか。	定期テスト/ワークシート/観察
	原始・古代	律令国家の形成	飛鳥の朝廷		○	○	○	○	a. 律令国家の形成過程・しくみとその後の展開や律令国家時代の文化に興味を持って学習に取り組んでいるか。 b. 律令制定のねらいや律令国家の構造・制度について考え提えられるか。 c. 推古朝の政治家蘇我の諸政策や外交について、史料から読み取ることができるか。また、律令や当時の記録から、律令の内容や当時の人々の生活を読み取ることができるか。 d. 律令国家の成立過程・展開や文化の導入とその様子を理解できるか。	定期テスト/ワークシート/観察
			律令国家への道		○	○	○	○		
			平城京の時代		○	○	○	○		
			天平文化		○	○	○	○		
	貴族政治の展開	平安王朝の形成	平安王朝の形成		○	○	○	○		
			摂関政治		○	○	○	○	a. 摂関政治の成立・展開と地方政治の乱れ・武士の台頭や国風文化について興味をもって学習に取り組んだか。 b. 国風文化の成立・展開の背景を考え理解できるか。 c. 摂関政治のはじまり・展開に関する史料から辻の摂関政治の様子を読み取れたか。また、地方政治の乱れや武士の台頭に関する史料から、当時の	定期テスト/ワークシート/観察
			国風文化		○	○	○	○		
	中世社会の成立	院政時代の展開	院政時代		○	○	○	○	a. 貴族の時代から武士の時代への転換期に興味をもって学習に取り組めたか。 d. 院政時代・平氏政権の平安末期の様子を理解できたか。	定期テスト/ワークシート/観察
			平氏の台頭と平氏政権		○	○	○	○		
			鎌倉幕府の成立		○	○	○	○	b. 蒙古襲来の背景を国際社会の中で考え理解できるか。また、鎌倉文化の成立背景を、特に鎌倉新仏教・既存仏教のありかたを考察できるか。 c. 鎌倉幕府の成立期の史料や御成敗式目などの史料から幕府のしくみ・あり方を読み取れるか。 d. 源平合戦から鎌倉幕府の成立、試験政治の開始・展開、蒙古襲来とその後の幕府衰退の過程を理解できるか。	定期テスト/ワークシート/観察
			武士の社会		○	○	○	○		
			蒙古襲来と幕府の衰退		○	○	○	○		
	中世	武家社会の成長	鎌倉文化		○	○	○	○		
			鎌倉幕府の滅亡と建武の新政		○	○	○	○	a. 鎌倉幕府の成立から建武の新政を、南北朝時代を経て室町幕府が成立する過程に興味をもって学習に取り組めたか。また、幕政の展開・衰退の過程に興味をもって学習に取り組めたか。さらに、室町時代の文化に興味をもって学習に取り組めたか。 b. 室町幕府の特性や義満の外交戦略を考察し理解できるか。また室町文化の成立の背景を考え理解できるか。 c. 室町幕府の法令や外交文書から、幕政の特徴を読み取れるか。また、庶民の台頭により一揆・暴徒など当時の人々の様子を史料から読み取れるか。さらに、史料から文化面での庶民の台頭を読み取れるか。 d. 室町時代の政治の流れ・社会・経済・文化を理解できるか。	定期テスト/ワークシート/観察
南北朝時代				○	○	○	○			
室町幕府の成立				○	○	○	○			
室町時代の外交				○	○	○	○			
室町幕府の衰退と庶民の台頭				○	○	○	○			
中世の産業・経済				○	○	○	○			
室町文化				○	○	○	○			
織豊政権と桃山文化	織豊政権と桃山文化	戦国大名の登場		○	○	○	○	a. 戦国時代を興味をもって学習に取り組めたか。 b. 有力な戦国大名がどんな地域に拠ったか。 c. 分国法から戦国大名の領国経営を読み取れたか。 d. 戦国時代の様子を理解できたか。	定期テスト/ワークシート/観察	
		鉄砲の伝来と南蛮人の来航		○	○	○	○	a. 信長・秀吉による天下統一の過程に興味をもって学習に取り組めたか。 b. 秀吉の政策のねらいを考え理解できるか。また、桃山文化の特色を、社会背景から考察できるか。 c. 鉄砲の伝来やキリスト教宣教師の書簡などから、当時の人々の生活を読み取れるか。また、桃山文化の特色を、図版や史料で前代と比較することによって見いだせるか。 d. 信長・秀吉の天下統一の過程を理解できるか。また、桃山文化の文化財に取り組めたか。	ワークシート	
		織田信長の統一事業		○	○	○	○			
		豊臣秀吉の全国統一		○	○	○	○			
	織豊政権と桃山文化	江戸幕府の成立	桃山文化		○	○	○	○		
			鉄砲の伝来と南蛮人の来航		○	○	○	○	a. 信長・秀吉・家康による天下統一・天下泰平の過程に興味をもって学習に取り組めたか。 b. 秀吉や家康の政策のねらいを考え理解できるか。また、桃山文化の特色を、社会背景から考察できるか。 c. 鉄砲の伝来やキリスト教宣教師の書簡などから、当時の人々の生活を読み取れるか。また、桃山文化の特色を、図版や史料で前代と比較することによって見いだせるか。 d. 信長・秀吉・家康の天下統一・天下泰平の過程を理解できるか。また、桃山文化の文化財の特徴を前代と比較して理解できるか。	定期テスト/ワークシート/観察
			織田信長の統一事業		○	○	○	○		
			豊臣秀吉の全国統一		○	○	○	○		
			徳川家康の天下掌握と江戸幕府の成立		○	○	○	○		
			幕藩体制の確立		○	○	○	○		

学期	内容のまとめ	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
二 学 期	近世	幕藩体制の成立	江戸幕府の成立	○				a. 幕藩体制の成立とこの時期の文化について興味をもって学習に取り組んだか。 b. 幕藩体制の構造とその背景を考察できたか。 c. 史料を読みこなしその内容を理解できたか。 d. 幕藩体制の構造を理解できたか。	定期テスト/ワークシート/観察
			幕藩体制						
			幕府と藩の機構						
			天皇と朝廷			○			
			禁教と寺社			○			
			江戸時代初期の外交			○			
			鎖国体制と長崎貿易			○			
			朝鮮と琉球・蝦夷地	○					
		寛永期の文化			○				
		幕藩社会の構造	身分と社会			○		a. 社会の構造について興味を持って学習に取り組んだか。 b. 百姓や町人の統制の本質を考察できたか。 c. 史料を読みこなしその内容を理解できたか。 d. 幕藩社会の構造を理解できたか。	定期テスト/ワークシート/観察
			村と百姓			○			
			町と町人			○			
			江戸時代初期の産業	○					
		幕政の安定	平和と秩序の確立					a. 寛文～正徳期の政治について興味を持って学習に取り組んでいるか。 b. 幕政安定期の社会背景を考察できたか。 c. 史料を読みこなしその内容を理解できたか。 d. 寛文～正徳期の政治について理解できたか。	定期テスト/ワークシート/観察
			元禄時代			○			
			正徳の政治			○			
		経済の発展	農業生産の進展			○		a. 経済の発展について興味を持って学習に取り組んだか。 b. 貨幣・金融について考察できたか。 c. 史料を読みこなしその内容を理解できたか。 d. 経済の発展について理解できたか。	定期テスト/ワークシート/観察
			諸産業の発達			○			
			交通の整備と発達			○			
			貨幣と金融			○			
			三都の発展	○					
商業の展開				○					
元禄文化	元禄文化の特徴			○		a. 元禄文化について興味を持って学習に取り組んだか。 b. 元禄文化の特徴と、その社会的背景について考察できたか。 c. 史料を読みこなしその内容を理解できたか。 d. 元禄文化について理解できたか。	定期テスト/ワークシート/観察		
	元禄期の文学	○							
	儒学の興隆			○					
	諸学問の発達			○					
	元禄美術	○							
幕政の改革	享保の改革			○		a. 享保の改革～田沼時代までの政治の流れについて興味を持って学習に取り組んだか。 b. 享保の改革のねらいについて考察できたか。また、田沼意次の画期的な政策方針についてその本質を考察できたか。 c. 史料を読みこなしその内容を理解できたか。 d. 享保の改革～田沼時代の流れと社会の変容について理解できたか。	定期テスト/ワークシート/観察		
	社会の変容			○					
	一揆と打ち壊し			○					
	田沼時代			○					
宝暦・天明期の文化	洋学の始まり	○				a. 宝暦・天明期の文化について興味を持って学習に取り組んだか。 b. 宝暦・天明期の特徴と、その社会的背景について考察できたか。 c. 史料を読みこなしその内容を理解できたか。 d. 宝暦・天明期の文化について理解できたか。	定期テスト/ワークシート/観察		
	国学の発達と尊王論			○					
	生活から生まれた思想	○							
	儒学教育と学校								
	文学と芸能	○							
三 学 期	幕府の衰退と近代化への道	寛政の改革			○		a. 寛政の改革～天保期までの政治の流れについて興味を持って学習に取り組んだか。 b. 寛政の改革・天保の改革のねらいについて考察できたか。また、列強がなぜ日本近海に姿を現したかについて考察できたか。 c. 史料を読みこなしその内容を理解できたか。 d. 寛政の改革～天保期の流れと社会の変容について理解できたか。	定期テスト/ワークシート/観察	
		鎖国の動揺			○				
		文化・文政時代			○				
		大塩の乱			○				
		天保の改革			○				
		経済の変化			○				
		朝廷と雄藩の浮上			○				
		化政文化			○				
	化政文化	学問思想の動き			○		a. 化政文化について興味を持って学習に取り組んだか。 b. 化政文化の特徴と、その社会的背景について考察できたか。 c. 史料を読みこなしその内容を理解できたか。 d. 化政文化について理解できたか。	定期テスト/ワークシート/観察	
		教育			○				
		文学			○				
		美術			○				
		民衆文化の成熟	○						
		問題演習			○				
まとめと総復習	問題演習	12	問題演習			○	a. 問題演習に意欲的に取り組んだか。 c. 史料を読みこなしその内容を理解できたか。 d. 江戸時代全体についての流れと諸項目について理解できたか。	定期テスト/ワークシート/観察	
授業時(50分授業)		140							

令和4年度 希望ヶ丘高等学校 全日制 年間指導計画

教科・科目	地理歴史・世界史 探究	学年	第3学年	教科書	
		単位数	4単位	副教材	浜島書店「アカデミア世界史」

学習目標
近代から現代に至る世界歴史の展開を、諸地域の世界動向に焦点を当てながら、その形成、交流と再編、結合と変容、という大きな流れを、日本の歴史と関連づけながら理解させる。また、文化・文明の多様性を諸地域世界の接触や交流に着目して考察し、民主的・平和的な国家・社会の一員としての自覚、並びに国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。また、こうした学習を通して、物事の本質を見極め、課題の解決を目指す「追求する力」を身に付ける。

学習方法
・世界史の流れを、各地域・各時代の重要事項を中心に学びながら、各地域世界の文化的・歴史的発展の具体的な取組みの特質を理解させる。
・現代の諸事件・課題等との結びつきを常に意識し、世界の歴史への興味や関心を引き出しつつ、世界の歴史の基本的な内容を理解した上で、現代の課題を多角的に考察できる力を養う。
・知識の定着を図るための小テストを定期的の実施するまた、授業の理解度を測るための確認レポート等を実施する場合もある。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨			
	a	関心・意欲・態度	○外国の宗教・文化・歴史に対する関心・意欲、課題を追求する意欲 ○国際社会のなかで、よりよい社会の実現のために、参加・協力する態度			
	b	思考・判断・表現	○世界の各地域・国家のもつ特徴と課題を見出す思考 ○外国との比較の中で日本社会の特徴を捉え、その進路に関する判断			
	c	資料活用・技能	○各国の文化・歴史に関する各種資料を収集・活用する技能 ○学習内容・学習結果の整理と発表に関する方法			
d	知識・理解	○世界の宗教・文化、社会、経済、及び国際政治などに関する知識・理解				

学期	内容のまとめ	単元(題材)	時数	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法	
					a	b	c	d			
前期	一体化に向かう世界	近世ヨーロッパと大航海時代	2	1 ヨーロッパの海外進出	○	○	a:大航海時代とルネサンス、宗教改革、主権国家体制の形成と、新たな芸術・思想の運動、それぞれに関連しあって進行したことについて、関心を以て学習をしている。 b:第一次大航海時代との違いについて、その担い手や範囲、経済圏の変化から考察することができる。また、それと並行して進行した主権国家体制の特徴について、前近代社会における国家権力の構造との対比から考察することができる。 c:貿易の商品や経済規模、海路のルート、ルネサンスの作品群の特徴などを適切に活用している。 d:第2次大航海時代に入った結果発生した、世界規模の覇権競争と、それを支えた社会文化の形成について基本的な知識を身に付けている。				課題/宿題 小テスト 定期テスト
			2	2 第2次大航海時代と海城アジア	○	○					
			3	3 ルネサンスと宗教改革	○	○					
			3	4 主権国家体制の成立	○	○					
			2	5 激化する覇権競争	○	○					
			1	⑥ 近世ヨーロッパの社会と文化	○	○					
		2	1 中央ユーラシア世界と西アジア世界の帝国	○	○	a:ユーラシア大陸のアジア地域を安定的に支配した各帝国の特徴について、関心を持って学習している。 b:東南アジア諸国の地理的な特徴と第2次大航海時代との関係について、第1次大航海時代と比較して考察できる。また、中国を中心とした東アジアの国際秩序の視点から、朝鮮半島と日本列島の関係について考察できる。 d:アジア各地の帝国の安定的な支配の下で、発展した社会について、基本的な知識を身に付けている。				課題/宿題 小テスト 定期テスト	
		1	2 南アジア世界の帝国	○	○						
		1	3 東南アジア諸国と第2次大航海時代	○	○						
		3	4 東アジア世界の帝国	○	○						
		2	5 14～18世紀の朝鮮半島と日本列島	○	○						
		2	6 19世紀の朝鮮半島と日本列島	○	○						
3	1 イギリスの産業革命	○	○	a:産業革命の世界史的背景、技術革新や交通革命の進展と波及について、関心を持って学習している。 b:アメリカ独立革命が提起した近代市民社会の原理を、現代社会の諸問題と対比しながら考察することができる。 c:「人権宣言」や革命期のおもな党派などの資料、ナポレオンの活動を表現した図版などを適切に活用している。 d:フランス革命が起こった社会構造、恐怖政治に至る革命の進展過程に関する基本的な知識を身に付けている。				課題/宿題 小テスト 定期テスト			
3	2 南北アメリカの革命	○	○								
5	3 フランス革命とナポレオン帝政	○	○								
2	1 ウィーン体制と1848年の革命	○	○	a:ウィーン体制の特色と崩壊過程、社会主義思想の普及について、関心を持って学習している。 b:クリミア戦争以後の国際対立とビスマルク外交に関して、のちの第一次世界大戦に関連づけて考察することができる。 c:イタリアとドイツの統一、ベルリン会議後のバルカン半島といった図版などを適切に活用している。 d:ラテンアメリカの独立の経過、合衆国の西部への拡張や、世界一の工業国として発展したことに関する基本的な知識を身に付けている。				課題/宿題 小テスト 定期テスト			
4	2 19世紀後半のヨーロッパとアメリカ	○	○								
1	3 19世紀のヨーロッパ・アメリカの社会と文化	○	○								
後期	地球世界の到来	地球を覆う帝国主義と世界諸地域の抵抗	2	1 ヨーロッパの帝国主義	○	○	a:欧米列強が植民地獲得や勢力圏拡大の競争を繰り広げた結果、二極分化が進み、一次大戦につながる危機が高まったことに関心を持って学習している。また、アヘン・アロー戦争、太平天国の乱で清朝支配が動揺し、近代化への取り組みが始まったことを、関心を持って学習している。 b:19世紀後半から欧米で進展した第2次産業革命と、各国の帝国主義の動きを関連づけて考察することができる。また、西アジアでイスラム教の伝統に回帰する動きやアラブにナショナリズムの萌芽がみられたことを、近代化と比較しながら考察できる。 c:アフリカ・アジア・太平洋地域の関連地図、同盟関係図などの諸資料を適切に活用している。インド・東南アジアの植民地化を示す図版や諸資料を適切に活用している。 d:帝国主義の特質と、帝国主義時代における欧米列強の国内問題に関する基本的な知識を身に付けている。また、オスマン帝国の動揺とタンジマートの挫折、アラブ民族運動、イラン・アフガニスタンの対応に関する基本的な知識を身に付けている。				課題/宿題 小テスト 定期テスト
			2	2 アメリカの帝国主義	○	○					
			2	3 西アジアの改革運動	○	○					
			1	4 アフリカの分割と抵抗	○	○					
			3	5 インドの植民地化と民族運動、東南アジアの植民地化と民族運動	○	○					
			4	6 中華帝国の崩壊と中華民国の創立、19～20世紀初頭の朝鮮半島と日本列島	○	○					
		2	1 第一次世界大戦	○	○	a:ソ連邦成立に至るロシア革命の進展を、関心を持って学習している。また、第二次世界大戦の開戦に至る経過、戦禍の拡大、核兵器など大量破壊兵器の被害などを、関心を持って学習している。 b:日中、英印、イスラーム諸国といった、干渉国と民族運動の高揚の関係を多角的に考察し、追究することができる。 c:世界恐慌中の工業生産の推移を示す諸資料や、日中戦争の図版などを適切に活用している。 d:ヴェルサイユ・ワシントン両体制の問題点と、米ソを軸とする欧米諸国の動向に関して、基本的な知識を身に付けている。				課題/宿題 小テスト 定期テスト	
		3	2 ヴェルサイユ体制と国際協調	○	○						
		2	3 アジアのナショナリズムの台頭	○	○						
		3	4 世界恐慌とファシズム	○	○						
		2	5 満州事変と日中戦争	○	○						
		2	6 第二次世界大戦	○	○						

冷戦から多極的国際社会へ	4	1 冷戦時代の国際関係					a: ベトナム戦争やチェコスロヴァキア軍事介入など、米・ソ両大国の動揺について、関心を持って学習している。 b: 親ソ政権樹立による東欧の社会主義化とアメリカの経済援助や「対ソ封じ込め」政策を比較しながら考察することができる。また、冷戦の終結をゴルバチョフによるソ連の改革と関連づけて考察することができる。 c: 戦後のの地図、図版などを適切に活用している。また、朝鮮戦争の戦場をあらわす地図、冷戦時代の諸同盟や経済成長率などの諸資料、図版を適切に活用している。 d: 国際連合を柱とした戦後の世界秩序の形成、東西分断と冷戦体制、アジア諸地域の独立に関する基本的な知識を身につけている。また、キューバ危機やベトナム戦争、中ソ対立やソ連の東欧諸国に対する介入、西ドイツの東方外交による緊張緩和の進展などに関する基本的な知識を身につけている。	課題/宿題 小テスト 定期テスト
	5	2 戦後の南北アメリカ	○	○				
	6	3 戦後のソ連・ロシアと東ヨーロッパ	○	○				
	4	4 戦後の西ヨーロッパ						
	5	5 戦後のアフリカ	○	○				
	5	6 戦後の西アジア						
	3	7 戦後の南アジア						
	4	8 戦後の東南アジア						
	7	9 戦後の東アジア	○	○				
	2	10 20世紀の文化	○					
グローバリゼーションと地球環境の危機	7	1 グローバリゼーションの光と影					a: 新たな地域紛争の頻発、経済格差や貧困問題など、現代の世界情勢について関心を持って学習している。 b: 東欧社会主義圏の解体とソ連邦の消滅について、その歴史の意味を多角的に考察することができる。 c: PKOやPKF派遣数の資料や写真などを適切に活用している。 d: 科学の実用化に伴う環境の変化、現代文化の思想的な枠組み、現代文明による地球的規模の危機などに関する基本的な知識を身につけている。	
	7	2 「9.11」とアメリカ	○					
	7	3 国際協調をめざして						
	7	4 ゆたかかで安全な地球をめざして						
授業時数(50分授業)		140						

令和4年度 希望ヶ丘高等学校 全日制 年間指導計画

教科・科目	地理歴史・ 日本史研究	学年	第3学年	教科書※	山川出版 詳説日本史B
		単位数	2単位	副教材※	帝国書院 図説日本史通覧 とうほう 新編史料日本史

学習目標 昭和史の展開を、アジアのみならず世界的視野に立ち、多くの要素を踏まえ、幅広い見方で大きく歴史の流れを理解する。また、歴史の展開の中、日本文化の特色やその伝統の形成について認識を深める。その際、歴史の過程を実証的に考察させることによって歴史の見方・考え方を身に付け、歴史的思考力を養う。

学習方法 ① 知ることを楽しみましょう。教科書だけにこだわらず、小説や映画などを積極的に観ましょう。歴史の教材はいたるところにあります。いろいろな日本の歴史に触れることで、歴史を知る楽しさがわかるようになると思います。② 図録を良く見ましょう。副教材として「日本史図表」を利用しますが、この教材には多くの写真や絵画、グラフ・年表などがふんだんに配置されています。これらをべらべらめくりながら見ているだけでも、皆さんの若い頭には多くの歴史的事柄や人物・事件などが印象付けられると思います。目で歴史を学ぶということもあるのですよ。③ 教科書を読みましょう。授業では教科書より詳しく勉強する部分もあり、教科書に書いてあっても触れないこともあります。歴史の流れをつかむために教科書を読みましょう。その時は覚えようとしなくていいです。④ 授業に集中し、しっかりノートを作りましょう。テストはノートやプリントから出ます。授業で先生が板書したことは勿論、話した内容もノートに取り、これは大事だと思ったところをマークし、覚えるようにしましょう。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨			
	a	関心・意欲・態度	○日本の文化・歴史に対する関心・意欲、課題を追求する意欲 ○国際社会のなかでの、日本の果たす役割を自覚し実践しようとする態度			
	b	思考・判断	○それぞれの時代特徴と課題を見出す思考 ○各時代の文化の変遷とつながりを考え、それらを現代にどう生かすかを判断する能力			
	c	資料活用の技能・表現	○各時代の文化・歴史に関する各種資料を収集・活用・表現する技能 ○学習内容・学習結果の整理と発表に関する方法			
	d	知識・理解	○日本の政治・経済・文化・社会、及び諸外国との関わりに関する知識 ○歴史的事項や諸外国との関係を多面的に理解する力			

※ 定期テストに関しては、上記四つの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。

学期	内容のまとめ	単元(題材)	時数	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	二つの世界大戦とアジア	大正時代概観	2	大正の政治の推移		○			d. 大正時代の様子がだまかに捉えられていたか。	テスト/課題
		恐慌の時代	6	戦後恐慌から金融恐慌へ		○			a. 恐慌の時代の推移について興味をもって学習に取り組んだか。	テスト
				社会主義運動の高まりと積極外交への転換			○		b. 恐慌の背景を考察できたか。	
				金解禁と世界恐慌			○		c. 史料を読みこなしその内容を理解できたか。	
				協調外交の挫折			○		d. 恐慌の時代の構造を理解できたか。	
		軍部の台頭	6	満州事変		○			a. 軍部の台頭時代の推移について興味をもって学習に取り組んだか。	テスト
				政党内閣の崩壊と国際連盟からの脱退		○			b. 軍部台頭の背景を考察できたか。	
				恐慌からの脱出		○			c. 史料を読みこなしその内容を理解できたか。	
				転向の時代		○			d. 軍部の台頭の流れを理解できたか。	
		第二次世界大戦	10	二・二六事件		○			a. 二・二六事件後から太平洋戦争へ動きに興味を持って学習に取り組んだか。	テスト/ワークシート
	三国防共協定				○			b. 日本が戦争へ突き進んだ背景を考察できたか。		
	日中戦争				○			c. 史料を読みこなしその内容を理解できたか。		
	戦時統制と生活				○			d. 二・二六事件後から敗戦までの流れを理解できたか。		
	戦時下の文化				○					
	第二次世界大戦の勃発					○				
	占領下の日本	占領下と改革	4	戦後世界秩序の形成		○			a. 戦後改革にに興味を持って学習に取り組んだか。	テスト
				初期の占領政策		○			b. 米軍の占領政策の背景を考察できたか。	
		冷戦の開始と講和	6	政党政治の復活		○			a. 戦後の政党政治の展開について興味を持って学習に取り組んだか。	テスト/ワークシート
日本国憲法の制定					○			b. 占領期の文化の特徴と、その社会的背景について考察できたか。		
生活の混乱と大衆運動の高揚					○			c. 史料を読みこなしその内容を理解できたか。		
冷戦体制の形成と東アジア					○			d. 敗戦後から独立回復までの推移について理解できたか。		
占領政策の転換					○					
朝鮮戦争と日本					○					
後期	高度経済背朝の時代	55年体制	6	冷戦構造の世界		○		a. 55年体制の成立について興味を持って学習に取り組んだか。	テスト	
			独立の回復後の国内再編		○			b. 逆コースの時代の特徴と、その社会的背景について考察できたか。		
			55年体制の成立		○			c. 史料を読みこなしその内容を理解できたか。		
			安保条約の改定		○			d. 講和後から安保改定までの推移について理解できたか。		
			保守政権の安定		○					
	激動する世界と日本	経済復興から高度経済成長へ	4	朝鮮特需と経済復興		○			a. 高度経済成長の時代について興味を持って学習に取り組んだか。	テスト/ワークシート
				高度経済成長		○			b. 経済復興・高度経済成長の時代の特徴と、その社会的背景について考察できたか。	
				大衆消費社会の誕生		○			c. 史料を読みこなしその内容を理解できたか。	
		経済大国への道	4	高度経済成長のひずみ		○			d. 朝鮮戦争前から高度経済成長期について理解できたか。	
				ドル危機と石油危機		○			a. バブル経済の時代について興味を持って学習に取り組んだか。	テスト/ワークシート
高度経済成長の終焉		○			b. バブル経済の時代の特徴と、その社会的背景について考察できたか。					
経済大国の実現		○			c. 史料を読みこなしその内容を理解できたか。					
バブル経済と市民生活		○			d. 石油危機からバブル経済の時代の推移について理解できたか。					
冷戦の終結と日本社会の動揺	2	冷戦から内戦へ		○			a. バブル経済崩壊後の時代について興味を持って学習に取り組んだか。	テスト		
		55年体制の崩壊		○			b. 55年体制崩壊の背景について考察できたか。			
まとめと総復習	問題演習	20	平成不況下の日本経済		○			c. 史料を読みこなしその内容を理解できたか。	ワークシート	
			日本社会の混迷と諸課題		○			d. バブル経済崩壊後の推移について理解できたか。		
授業時数 (50分授業)		70								

令和4年度 希望ヶ丘高等学校 全日制 年間指導計画

教科・科目	地理歴史・世界史 研究	学年	第3学年	教科書	
		単位数	2単位	副教材	浜島書店「アカデミア世界史」

学習目標
近代から現代に至る世界歴史の展開を、諸地域の世界動向に焦点を当てながら、その形成、交流と再編、結合と変容、という大きな流れを、日本の歴史と関連づけながら理解させる。また、文化・文明の多様性を諸地域世界の接触や交流に着目して考察し、民主的・平和的な国家・社会の一員としての自覚、並びに国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
また、こうした学習を通して、物事の本質を見極め、課題の解決を目指す「追求する力」を身に付ける。

学習方法
・世界史の流れを、各地域・各時代の重要事項を中心に学びながら、各地域世界の文化的・歴史的発展の具体的な取組みの特質を理解させる。
・現代の諸事件・課題等との結びつきを常に意識し、世界の歴史への興味や関心を引き出しつつ、世界の歴史の基本的な内容を理解した上で、現代の課題を多角的に考察できる力を養う。
・知識の定着を図るための小テストを定期的実施するまた、授業の理解度を測るための確認レポート等を実施する場合もある。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨	
	a	関心・意欲・態度	○	○
b	思考・判断・表現	○	○	○世界の各地域・国家のもつ特徴と課題を見出す思考 ○外国との比較の中で日本社会の特徴を捉え、その進路に関する判断
c	資料活用の技能	○	○	○各国の文化・歴史に関する各種資料を収集・活用する技能 ○学習内容・学習結果の整理と発表に関する方法
d	知識・理解	○	○	○世界の宗教・文化、社会、経済、及び国際政治などに関する知識・理解

学期	内容のまとめ	単元(題材)	時数	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法	
					a	b	c	d			
前期	産業資本主義の発展と帝国主義	帝国主義とアジアの民族運動	8	帝国主義と列強の展開	○				a: 欧米列強が植民地獲得や勢力圏拡大の競争を繰り返した結果、二極分化が進み、一次大戦につながる危機が高まったことに関心を持って学習している。 b: 19世紀後半から欧米で進展した第2次産業革命と、各国の帝国主義の動きを関連づけて考察することができる。 c: アフリカ・アジア・太平洋地域の関連地図、同盟関係図などの諸資料を適切に活用している。 d: 帝国主義の特質と、帝国主義時代における欧米列強の国内問題に関する基本的な知識を身につけている。a:	課題/宿題 小テスト 定期テスト	
				世界分割と列強の対立		○					
	アジア諸地域の変革運動	8	アジア諸国の改革と民族運動			○	○				
			第一次世界大戦とロシア革命		○		○				
	世界戦争の時代	二つの世界大戦	8	ヴェルサイユ体制下の欧米諸国				○			a: 戦間期の国際協調と平和への取り組みが実を結ばなかった理由について、関心を持って学習している。 b: 日中関係、英印関係、イスラーム圏といった、干渉国と民族運動の高揚の関係を多角的に考察し、追究することができる。 c: 1920～30年代の中国、第一次世界大戦後の西アジアの図版・写真などを適切に活用している。 d: ヴェルサイユ・ワシントン両体制の問題点と、アメリカの繁栄、ソ連建設といった欧米諸国の動向に関して、基本的な知識を身につけている。
				アジア・アフリカ地域の民族運動	○	○					
10	世界恐慌とファシズム諸国の侵略		○			○	a: イタリア・ドイツ・日本のファシズムの特徴と勢力拡張の過程について、関心を持って学習している。 b: ファシズムという運動を20世紀における大衆社会の出現と関連づけて考察することができる。 c: ヨーロッパ戦線や太平洋戦争の図版・写真などを適切に活用している。 d: 第二次世界大戦における戦場の広域化、強制収容所の建設や核兵器の使用といった残虐行為など、戦争の惨禍に関する基本的な知識を身につけている。				
	第二次世界大戦		○			○					

後期	国民国家体制と東西の対立	冷戦と第三世界の自立	8	戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立					○	○	a: 朝鮮戦争後、核兵器開発競争や平和共存政策などの国際的な緊張・融和がくり返されたことについて、関心を持って学習している。 b: 西欧や日本の経済的な復興や高度成長を、戦後の国際政治に与えた影響と関連づけて考察することができる。
				米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興	○					○	c: ドイツとベルリンの分割図、第二次世界大戦後のアジア諸地域の独立を示す地図や図版を適切に活用している。 d: 国際連合を柱とした世界秩序、ヨーロッパの東西分断と冷戦体制、アジア諸地域の独立に関する基本的な知識を身につけている。
			8	第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り						○	○
		石油危機と世界経済の再編	○	○						c: チェルノブイリ原子力発電所の事故の写真などを、環境破壊の考察に適切に活用している。 d: オイル＝ショックなど戦後政治の転換期の動向や冷戦終結への取り組みに関する基本的な知識を身につけている。	
	わたしたちの時代	現代の世界	10	社会主義世界の変容とグローバリゼーションの進展	○					○	a: 通商の自由化と市場経済の世界化がより進展し、地球規模での相互依存が高まったことを学習している。 b: 中国・ベトナムで進む市場開放と工業化の進展を、その矛盾と関連づけて考察することができる。
				途上国の民主化と独裁政権の動揺						○	○
10			途上国の民主化と独裁政権の動揺						○	○	a: ラテンアメリカやアジアの途上国での強権支配の後退と民主化の進展について、関心を持って学習している。 b: 湾岸戦争とアフガニスタンやイラクに対する対テロ戦争における国際連合の行動の差異から、新たな国際秩序の在り方を考察している。
			地域紛争の激化と深刻化する貧困	○					○	c: インターネットや新聞などから国際社会の課題に関する情報を収集し、活用している。 d: 東欧やロシア、中東からアジアにかけて多発する地域紛争、アフリカの民主化と貧困問題、対テロ戦争と紛争解決や軍縮の試みに関する基本的な知識を身につけている。	
授業時数(50分授業)			70								課題/宿題 小テスト 定期テスト

令和4年度 希望ヶ丘高等学校 全日制 年間指導計画

教科・科目	公民・「現代社会」	学年	3学年	教科書	『高校 現代社会 新訂版』(実教出版)
		単位数	2単位	副教材	なし

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ○現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。 ○広い視野に立って、合意形成や社会参画を視野に入れながら、民主主義の本質に関する理解を深める。 ○現代の諸課題について、主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
------	---

学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ○初めに、教科書をしっかりと読みましょう。内容をしっかりと理解しなくてもかまいません。「これ聞いた事がある」「これ知らない」といった印象だけで十分です。その印象が、授業にのぞむ準備になります。 ○毎日の出来事に興味を持ちましょう。「決まった時間のテレビのニュースを見る」「毎朝、新聞の一面だけはしっかりと読む」等、習慣づけることができれば、あなたの「時事力」は高まることでしょう。 ○授業をしっかりと聞いてください。そして、グループワークでは、様々な考え方や意見に触れて、自らの視野を広げてください。
------	--

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨			
	a	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ○現代の諸課題に対する関心を高めて、意欲的に課題を追及する。 ○国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について考察する。 			
b	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○現実の社会に関わる事柄から具体的な課題を見い出す。 ○課題のなかから本質や特質、望ましい解決の在り方について多面的・多角的に考察する。 				
c	資料活用の技能	<ul style="list-style-type: none"> ○現実の社会や諸課題に関わる諸資料を収集する技能をもつ。 ○収集した資料のうち有用な情報を適切に選択し、効果的に活用する技能をもつ。 ○公正な判断を下すとともに、その過程と結果をさまざまな方法で適切に表現する。 				
d	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ○現実の社会や諸課題に関する基本的な事柄を理解する。 ○選択や判断の手掛かりとなる基本的な概念や理論を理解し、知識を身につけている。 				

学期	内容のまとめ	単元(題材)	時数	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前	現代社会の諸課題	地球環境を考える	2	地球環境問題	○				<ul style="list-style-type: none"> a:現代の地球環境問題に関心をもち、地球温暖化やオゾン層の破壊などのしくみを理解し、今後の地球環境問題への取り組みについて主体的に考察しようとしている。 b:現代社会における環境問題について、身近にある環境問題と関連づけて、その課題を見出し、将来世代の地球環境への現代世代の責任を自覚している。 c:環境問題の発生メカニズムと人間の経済活動との関連をたどっている。 d:地球全体の環境問題の特質を数値資料や記録資料からとらえ環境対策の数値目標の意味を理解している。 	定期試験 ワークシート 課題 授業中の観察
				地球環境問題への取組	○	○				
		資源・エネルギー・人口問題	○	○						
		現代の医学が問う生き方のあり方	○			○				
	科学技術の発達と生命	2	生命科学の発展と倫理	○	○			<ul style="list-style-type: none"> a:臓器移植や遺伝子医療などに関心をもち、生と死の意味を多様な立場から考察しようとする意欲をもっている。 b:生命に関わる課題について、社会の変化や様々な立場や考え方を踏まえて公正に判断している。 c:高度医療が伝統的な死生観で割り切れない問題をもちたらしめていることを理解し、多様な価値観を公平にとらえている。 d:臓器移植法の脳死判定基準に則して、伝統的な心臓死と脳死との違いを理解し、臓器移植の原理をとらえている。 		
			高度情報社会の現状と問題点	○	○					
	青年期と自己形成	2	生涯における青年期の意義	○			○		<ul style="list-style-type: none"> a:青年期にある自分のあり方・生き方に関心をもち、社会と自分との関わりを主体的に考察しようとしている。 b:青年期の心理的特質を理解し、職業や社会参加に向けて自己形成の課題を見出している。 c:青年期の自己形成の課題と社会が期待する人間像との関わりをとらえ、その歴史の変遷を理解している。 d:青年期を考える作品を通じて、現代社会における青年期の特質と課題をとらえている。 	
			青年期と自己形成の課題	○	○					
	職業生活と社会参加	○	○							
	現代社会と青年の生き方	○	○							
	他者と共に生きる倫理	12	ギリシャの思想	○			○	<ul style="list-style-type: none"> a:人生における哲学、宗教のもつ意義などに対する関心を高め、それらのもつ人間の存在や価値に関わる課題を意欲的に探究し、人間としての在り方生き方について考えようとしている。 b:自己の生き方に関わる課題と人生における哲学、宗教のもつ意義などをつなげて、人間の存在や価値に関わる基本的な課題を見出している。 c:ギリシアの思想、キリスト教、イスラム教、仏教、儒教など基本的な考え方を代表とする先哲の思想等、人生における哲学、宗教のもつ意義などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。 d:自己の生き方に関わる課題が、多くの先哲によって探究された課題と通じていることに気づき、それが人間の存在や価値に関わる基本的な課題であることを理解している。 		
			宗教の教え	○			○			
			人間の尊厳	○			○			
			人間の自由	○			○			
個人と社会			○			○				
人間性の回復			○	○						
人間への新たな問い	○	○								
現代国家と民主政治	2	人権保障の発展と現代社会	○			○	<ul style="list-style-type: none"> a:人権思想と近代国家の発展の歴史に関心をもち、人権尊重の観点から、民主主義における人間の在り方について考察しようとしている。 b:近代国家と人権保障の歩みを理解し、国民主権・多数決・権力分立などの基本原理と政治制度の多様性を見出している。 c:近代の人権思想の歩みと近代の民主主義国家の政治原理および現実の政治機構との関わりをとらえている。 d:近代民主政治の歩みと歴史的宣言文書を通じて、民主主義の原理の形成過程をとらえている。 			
		国民主権と民主政治の発展	○	○						
日本国憲法と国民生活	14	日本国憲法の成立	○			○	<ul style="list-style-type: none"> a:憲法の基本原則を理解したうえで、日本の防衛問題や人権問題に関心をもち、政治の主体としての自覚をもっている。 b:政党政治や選挙などに着目し、政治のあり方や主権者としての政治参加のあり方について価値観の多様化などの社会の変化を踏まえて公正に判断している。 c:憲法の平和主義と日本の防衛問題との関連、憲法の人権保障と裁判所 d:近代国家には、国民の基本的な人権と国家の基本的な制度的枠組みを定めた最高法規として憲法があることを理解している。 			
		平和主義と日本の安全	○			○				
		基本的人権の保障	○	○						
		人権の広がり	○	○						
		政治機構と国民生活	○	○						
		人権保障と裁判所	○	○						
		地方自治	○	○						
		選挙と政党	○	○						
政治参加と世論	○	○								
国際政治の動向	10	国際社会における政治と法	○			○	<ul style="list-style-type: none"> a:国際政治の動向に興味関心をもち、人権尊重の立場から、人種民族問題・軍縮問題の現状をとらえ、それらの諸要因を意欲的に追及しようとしている。 b:今後の国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について、国際的な社会の変化を踏まえて公正に判断している。 c:戦後の国際政治の動向と国際紛争との関わりを理解し、国際組織が紛争解決のために果たす役割をとらえている。 d:国際政治年表や国際紛争と地域的安全保障の地図を活用し、国連に求められる役割と新しい秩序の理念をとらえて、理解している。 			
		国家安全保障と国際連合	○			○				
		冷戦期の脅威と冷戦後の脅威	○	○						
		軍備競争と軍備縮小	○	○						
		異なる人種・民族との共存	○	○						
		国際社会と日本	○	○						

後	現代の経済社会と政府の役割	10	経済社会の形成と変容	○		○	a: 現代の市場経済の現状と特質に関心をもち、自ら経済活動の主体として現代日本の金融・財政問題をとらえ、意欲的に追及しようとしている。 b: 現代の市場経済の特質と現代企業の特徴を理解し、日銀の金融政策と政府の経済政策の現状と課題を見出している。 c: 技術革新と寡占・市場の失敗との関連や政府・日銀の財政金融政策とバブル経済や財政危機との関わりをとらえている。 d: 公定歩合と株価や地価との相関、国債発行額および依存度の推移と財政危機との関わりを統計資料からとらえ、理解している。	定期試験 ワークシート 課題 授業中の観察	
			市場のしくみ		○	○			
			現代の企業	○	○				
			経済成長と景気変動	○	○				
			金融機関の働き		○	○			
	政府の役割と財政・租税		○	○					
	経済活動のあり方と国民福祉	8	日本経済の歩みと近年の課題	○		○	a: 戦後の日本経済の歩みと現状に関心をもち、環境・労働・社会保障などの諸問題を自らの問題として主体的にとらえている。 b: 戦後の日本経済の歩みと現状を理解し、公害問題・消費者問題・労働問題・社会保障問題の現状と課題を見出している。 c: 日本経済の歩みと国際経済との関わりを理解し、現代の経済の問題の原因と問題解決の視点をとらえている。 d: 戦後の経済成長率の推移と景気・不景気との相関や国際化時代の日本経済の現状をとらえ、理解している。		
			中小企業と農業	○	○				
			公害防止と環境保全	○	○				
			消費者問題		○	○			
労働問題と雇用				○	○				
社会保障		○	○						
国際経済の動向	6	国際経済のしくみ	○		○	a: 国際経済の動向と世界各地の地域経済に興味関心をもち、経済摩擦や南北問題の現状をとらえ、自らの役割を考えている。 b: 国際経済の原理と戦後の国際経済の動向を理解し、経済摩擦や問題や南北問題の現状と日本の役割を見出している。 c: 国際経済の動向と地域経済統合の現状から、経済摩擦や南北問題の原因および解決のための視点をとらえている。 d: 一国の経済政策や経済活動が他国にも多大な影響を与えるなど、国際社会における相互依存関係が一層深まっていることや、国際経済の問題の解決には国家や国際機構などの多様な組織が協力していくことが重要であることについて理解している。	定期試験 ワークシート 課題 授業中の観察		
		国際経済体制の変化	○	○					
		金融のグローバル化と世界金融危機	○		○				
		地域経済統合と新興国	○	○					
		ODAと経済協力		○	○				
現代社会の諸課題	現代日本の政治や経済の諸課題	2	持続可能な社会のために	○	○	d: 持続可能な社会の形成という観点を中心として設定した現代社会における課題について、自己の生き方や他者・社会との関わりに着目して意欲的に探究している。 b: 現代社会における課題について多面的、多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえて公正に判断している。 c: 課題の設定の仕方、統計や資料の見方、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法を身に付けている。 d: 現代社会が物的な豊かさを求めることが、将来世代に過度な負荷を与えることにつながるのではないかについて理解し、その知識を身に付けている。		定期試験 ワークシート 課題 授業中の観察	
			排除しない社会へ		○				○
			感染症の治療と予防						○
授業時数(50分授業)		70							

令和4年度 希望ヶ丘高等学校 全日制 年間指導計画

教科・科目	公民・ 「政治・経済」	学年	3学年	教科書	第一学習社「高等学校 改訂版 政治・経済」
		単位数	4単位	副教材	栄光出版「島山のスパッとわかる政治・経済 爽快講義 改訂5版」 第一学習社「最新政治・経済資料集 新版」

学習目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
------	---

学習方法	<p>○初めに、教科書をしっかりと読みましょう。内容をしっかりと理解しなくてもかまいません。「これ聞いた事がある」「これ知らない」といった印象だけで十分です。その印象が、授業にのぞむ準備になります。</p> <p>○毎日の出来事に興味を持ちましょう。「決まった時間のテレビのニュースを見る」「毎朝、新聞の一面だけはしっかりと読む」等、習慣づけることができれば、あなたの「政経力」は高まることでしょう。</p> <p>○授業をしっかりと聞いてください。そして、グループワークでは、様々な考え方や意見に触れて、自らの視野を広げてください。</p>
------	---

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨			
	a	関心・意欲・態度	○現代の政治・経済に対する関心を高めて、意欲的に課題を追及する。 ○国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について考察する。			
	b	思考・判断・表現	○現代の政治・経済に関わる事柄から具体的な課題を見出す。 ○課題のなかから本質や特質、望ましい解決の在り方について多面的・多角的に考察する。			
	c	資料活用技能	○現代の政治・経済に関わる諸資料を収集する技能をもつ。 ○収集した資料のうち有用な情報を適切に選択し、効果的に活用する技能をもつ。 ○公正な判断を下すとともに、その過程と結果をさまざまな方法で適切に表現する。			
	d	知識・理解	○現代の政治・経済に関する基本的な事柄を理解する。 ○政治・経済に関する基本的な概念や理論を理解し、知識を身につけている。			

学期	内容のまとめ	単元(題材)	時数	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法	
					a	b	c	d			
1	現代の政治	民主政治の基本 原理と日本 国憲法	8	政治と法の機能	○				a:民主政治の本質を把握しながら、政治と私たちの関わりについて関心を高める。 c:各国の政治体制について諸資料を利用して調査する。 d:法に関する見方や考え方を把握し、法の意義を理解する。	定期試験 ワークシート 課題 授業中の観 察	
				人権保障と法の支配				○			
				議会制民主主義と世界の政治体制				○			
			8	日本国憲法の基本原理	○						a:日本国憲法をめぐる論点について関心を高める。 b:基本的人権について理解を深め、その本質を把握する。 d:日本国憲法の三大原理について理解する。 d:「公共の福祉」の概念について理解する。
				平和主義と自衛隊				○			
				基本的人権の保障と新しい人権				○			
		16	国会の組織と立法	○				a・d:国会、内閣、裁判所にふれながら、主権者としての政治に対する関心を高める。 a:政党政治の特徴を理解しながら、政治への関心を高める。 b:日本国憲法下での立法・行政・司法のあり方について幅広い視点から考察する。 b:政治的無関心の広がりについて考察する。 c:報道資料などから自分の住んでいる地域の実情を調査する。			
			内閣の機構と行政		○						
			裁判所の機能と司法制度	○							
			地方自治制度と住民の権利				○				
			政党政治と選挙制度	○							
			民主政治における世論の役割				○				
16	現代の国際政治と日本	国際社会と国際法				○	a:冷戦終結後の国際社会の動向について関心を高める。 b:民族紛争を例に、複雑な国際関係を幅広い視点から考察する。 c:メディアを利用して調査し、国際平和のために日本が貢献できることについて、多角的な視点で考察する。 d:国際社会の成立過程を把握する。 d:国際連合の役割、国際連合が抱えている課題について理解する。				
		国際連合の組織と役割				○					
		国際政治の動向				○					
		国際紛争と難民問題		○							
		軍備管理と軍縮				○					
		日本の外交と国際平和への役割	○								
2	現代の経済	8	経済社会の発展				○	a:企業の社会的責任について関心を高める。 b:社会主義経済の特徴と比較し、現代経済の特質について理解する。 c:諸資料を利用して、日本と諸外国の経済の現状を比較する。 d:「需要と供給との関係」について、正しく理解する。	定期試験 ワークシート 課題 授業中の観 察		
			経済主体と経済活動	○						○	
			市場経済の機能と限界							○	
			経済成長と景気変動							○	
		8	物価の動き							○	
			金融のしくみとはたらき							○	
			財政のしくみとはたらき	○						○	
			日本経済の歩み							○	
		8	中小企業の地位と役割							○	
			農業の現状と課題							○	
			消費者問題							○	
			高度情報社会の進展と課題	○							
		6	労働問題							○	b:日本の社会保障制度を体系的に捉えるとともに、現在の制度上の問題点と課題について考察する。 c:メディアを利用して、最近の労働問題を調査する。 d:原子力発電・新エネルギーのメリット・デメリットを理解する。
			社会保障制度の充実							○	
			環境保全と資源・エネルギー問題							○	
										○	

		国民経済と国際経済	10	国際経済のしくみ				<input type="radio"/>	a: グローバリゼーションにともなうヒト、モノ、カネの国際的な移動が、国際経済に与える影響について、関心を高める。	定期試験 ワークシート 課題 授業中の観察	
				国際協調と国際経済機関の役割				<input type="radio"/>	b: 日本が南北問題の解決に向けてどのような役割が期待されているか考察する。		
				地域的経済統合			<input type="radio"/>		c: FTA・EPAについて諸資料を利用しながら考察する。		
				グローバル化する経済	<input type="radio"/>				d: 国際経済に関する基本的な概念や理論を理解する。		
				南北問題と日本の役割	<input type="radio"/>				d: 円高・円安が国内の産業にどのように影響するか理解する。		
	現代社会の諸課題	現代日本の政治や経済の諸課題	6	少子高齢社会と社会保障				<input type="radio"/>	b: 現代社会の諸課題について、客観的な立場に立って望ましい解決のあり方を考える。		
					地域社会の変貌と住民生活				<input type="radio"/>		c: 現代社会の諸課題について探究し、さまざまなメディアや聞き取りなどによって調査する。
					雇用と労働をめぐる問題			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		b・c: 調査結果をもとに、話しあい・発表・レポート・小論文などの言語活動によって自分の意見を表現する。
					産業構造の変化と中小企業			<input type="radio"/>			d: 現代社会の諸課題について理解を深める。
					農業と食料問題		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
			国際社会の政治や経済の諸課題	6	地球環境と資源・エネルギー問題	<input type="radio"/>				b: 現代社会の諸課題について、客観的な立場に立って望ましい解決のあり方を考える。	
						国際経済格差の是正と国際協力			<input type="radio"/>	c: 現代社会の諸課題について探究し、さまざまなメディアや聞き取りなどによって調査する。	
						人種・民族問題と地域紛争			<input type="radio"/>	b・c: 調査結果をもとに、自分の意見を表現する。	
						国際社会における日本の立場と役割	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	a・d: 国際社会の諸課題について理解を深め、関心を高める。	
								<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
3	まとめと総復習	問題演習	40	問題演習	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	a: 授業で扱った問題を復習している・解き直しを行っている。 b: 政治・経済の基本的な知識を基にして、思考力を要する入試問題を解く事ができる。 d: 語句問題などの知識を要する入試問題を解くことができる。			
授業時数(50分授業)			140								

令和4年度 希望ヶ丘高等学校 全日制 年間指導計画

教科・科目	公民・ 「政治・経済探究」	学年	3学年	教科書	第一学習社「高等学校 改訂版 政治・経済」
		単位数	2単位	副教材	栄光出版「島山のスパッとわかる政治・経済 爽快講義 改訂5版」 第一学習社「最新政治・経済資料集 新版」

学習目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
------	---

学習方法	○必修選択の「政治・経済」の中で学習した内容を踏まえて、更なる深掘りや問題演習を中心に進めていきます。 ○なので、授業前には直近1週間の「政治・経済」で学習した内容を復習してから授業に臨みましょう。 ○単なる記号の暗記ではなく、全体の関係性や流れを理解するよう努めましょう。
------	---

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨			
	a	b	a	b	c	d
a	関心・意欲・態度	○現代の政治・経済に対する関心を高めて、意欲的に課題を追及する。 ○国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について考察する。				
b	思考・判断・表現	○現代の政治・経済に関わる事柄から具体的な課題を見出す。 ○課題のなかから本質や特質、望ましい解決の在り方について多面的・多角的に考察する。				
c	資料活用技能	○現代の政治・経済に関わる諸資料を収集する技能をもつ。 ○収集した資料のうち有用な情報を適切に選択し、効果的に活用する技能をもつ。 ○公正な判断を下すとともに、その過程と結果をさまざまな方法で適切に表現する。				
d	知識・理解	○現代の政治・経済に関する基本的な事柄を理解する。 ○政治・経済に関する基本的な概念や理論を理解し、知識を身につけている。				

学期	内容のまとめ	単元(題材)	時数	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
1	現代の政治	民主政治の基本 原理と日本 国憲法	4	政治と法の機能	○				a:民主政治の本質を把握しながら、政治と私たちとの関わりについて関心を高める。	定期試験 ワークシート 課題 授業中の観 察
				人権保障と法の支配				○	c:各国の政治体制について諸資料を利用して調査する。	
				議会制民主主義と世界の政治体制				○	d:法に関する見方や考え方を把握し、法の意義を理解する。	
			4	日本国憲法の基本原理	○				a:日本国憲法をめぐる論点について関心を高める。	
				平和主義と自衛隊				○	b:基本的人権について理解を深め、その本質を把握する。	
				基本的人権の保障と新しい人権				○	d:「公共の福祉」の概念について理解する。	
		8	国会の組織と立法	○				a・d:国会、内閣、裁判所にふれながら、主権者としての政治に対する関心を高める。		
			内閣の機構と行政		○			a:政党政治の特徴を理解しながら、政治への関心を高める。		
			裁判所の機能と司法制度	○				b:日本国憲法下での立法・行政・司法のあり方について幅広い視点から考察する。		
			地方自治制度と住民の権利				○	b:政治的無関心の広がりについて考察する。		
			政党政治と選挙制度	○				c:報道資料などから自分の住んでいる地域の実情を調査する。		
			民主政治における世論の役割				○			
8	現代の国際政治と日本	国際社会と国際法				○	a:冷戦終結後の国際社会の動向について関心を高める。			
		国際連合の組織と役割				○	b:民族紛争を例に、複雑な国際関係を幅広い視点から考察する。			
		国際政治の動向				○	c:メディアを利用して調査し、国際平和のために日本が貢献できることについて、多角的な視点で考察する。			
		国際紛争と難民問題		○			d:国際社会の成立過程を把握する。			
		軍備管理と軍縮				○	d:国際連合の役割、国際連合が抱えている課題について理解する。			
		日本の外交と国際平和への役割	○							
2	現代の経済	4	経済社会の発展				○	a:企業の社会的責任について関心を高める。	定期試験 ワークシート 課題 授業中の観 察	
			経済主体と経済活動	○				○		b:社会主義経済の特徴と比較し、現代経済の特質について理解する。
			市場経済の機能と限界					○		c:諸資料を利用して、日本と諸外国の経済の現状を比較する。
			経済成長と景気変動					○		d:「需要と供給との関係」について、正しく理解する。
		4	物価の動き					○		a:財政の基本的なしくみや役割について関心を高める。
			金融のしくみとはたらき					○		b:物価の変動が国民経済に及ぼす影響について考察する。
			財政のしくみとはたらき	○				○		c:公債残高の膨張が将来に及ぼす影響を考察する。
			日本経済の歩み					○		d:金融のしくみや役割を理解する。 d:公害などの社会問題が発生したことを認識する。
		4	中小企業の地位と役割					○		a:高度情報社会の課題について理解し、関心を高める。
			農業の現状と課題					○		b:日本の農業が直面している課題について考察する。
			消費者問題					○		c:消費者問題の現状について諸資料を利用して調査する。
			高度情報社会の進展と課題	○						d:中小企業が果たしている役割について理解する。 d:クレジットやローンや多重債務問題について理解する。
		3	労働問題					○		b:日本の社会保障制度を体系的に捉えるとともに、現在の制度上の問題点と課題について考察する。
			社会保障制度の充実					○		c:メディアを利用して、最近の労働問題を調査する。
			環境保全と資源・エネルギー問題					○		d:原子力発電・新エネルギーのメリット・デメリットを理解する。

		国民経済と国際経済	5	国際経済のしくみ				<input type="radio"/>	a:グローバル化にともなうヒト、モノ、カネの国際的な移動が、国際経済に与える影響について、関心を高める。	定期試験 ワークシート 課題 授業中の観察	
				国際協調と国際経済機関の役割				<input type="radio"/>	b:日本が南北問題の解決に向けてどのような役割が期待されているか考察する。		
				地域的経済統合			<input type="radio"/>		c:FTA・EPAについて諸資料を利用しながら考察する。		
				グローバル化する経済	<input type="radio"/>				d:国際経済に関する基本的な概念や理論を理解する。		
				南北問題と日本の役割	<input type="radio"/>				d:円高・円安が国内の産業にどのように影響するか理解する。		
	現代社会の諸課題	現代日本の政治や経済の諸課題	3	少子高齢社会と社会保障				<input type="radio"/>	b:現代社会の諸課題について、客観的な立場に立って望ましい解決のあり方を考える。		
					地域社会の変貌と住民生活				<input type="radio"/>		c:現代社会の諸課題について探究し、さまざまなメディアや聞き取りなどによって調査する。
					雇用と労働をめぐる問題			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		b・c:調査結果をもとに、話しあい・発表・レポート・小論文などの言語活動によって自分の意見を表現する。
					産業構造の変化と中小企業			<input type="radio"/>			d:現代社会の諸課題について理解を深める。
					農業と食料問題		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
			国際社会の政治や経済の諸課題	3	地球環境と資源・エネルギー問題	<input type="radio"/>				b:現代社会の諸課題について、客観的な立場に立って望ましい解決のあり方を考える。	
					国際経済格差の是正と国際協力			<input type="radio"/>		c:現代社会の諸課題について探究し、さまざまなメディアや聞き取りなどによって調査する。	
					人種・民族問題と地域紛争			<input type="radio"/>		b・c:調査結果をもとに、自分の意見を表現する。	
					国際社会における日本の立場と役割		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		a・d:国際社会の諸課題について理解を深め、関心を高める。	
3		まとめと総復習	入試問題演習	20	入試問題演習	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	a:授業で扱った問題を復習している・解き直しを行っている。 b:政治・経済の基本的な知識を基にして、思考力を要する入試問題を解く事ができる。 d:語句問題などの知識を要する入試問題を解くことができる。	
授業時数(50分授業)			70								

令和4年度 希望ヶ丘高等学校 全日制 年間指導計画

教科・科目	公民・ 「政治・経済研究」	学年	3学年	教科書	なし
		単位数	2単位	副教材	第一学習社「最新政治・経済資料集 新版」 実教出版「2022大学入試共通テスト政治・経済重要問題集」

学習目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させることで、共通学力テストに対応できる学力を養成する。 政治・経済に関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
------	---

学習方法	○しっかり集中して授業に取り組むことで、効果的な学習が可能になります。問題演習を通じて、実践力を高めましょう。 ○授業をしっかり聞いてください。そして、グループワークでは、様々な考え方や意見に触れて、自らの視野を広げてください。 ○毎日の出来事に興味を持ちましょう。「決まった時間のテレビのニュースを見る」「毎朝、新聞の一面だけはしっかりと読む」等、習慣づけることができれば、あなたの「政経力」は高まることでしょう。
------	--

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨			
	a	b	a	b	c	d
a	関心・意欲・態度	○現代の政治・経済に対する関心を高めて、意欲的に課題を追及する。 ○国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について考察する。				
b	思考・判断・表現	○現代の政治・経済に関わる事柄から具体的な課題を見出す。 ○課題のなかから本質や特質、望ましい解決の在り方について多面的・多角的に考察する。				
c	資料活用技能	○現代の政治・経済に関わる諸資料を収集する技能をもつ。 ○収集した資料のうち有用な情報を適切に選択し、効果的に活用する技能をもつ。 ○公正な判断を下すとともに、その過程と結果をさまざまな方法で適切に表現する。				
d	知識・理解	○現代の政治・経済に関する基本的な事柄を理解する。 ○政治・経済に関する基本的な概念や理論を理解し、知識を身につけている。				

学期	内容のまとめ	単元(題材)	時数	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前	現代の政治	民主政治の基本 原理と日本 国憲法	4	政治と法の機能	○				a:民主政治の本質を把握しながら、政治と私たちとの関わりについて関心を高める。 c:各国の政治体制について諸資料を利用して調査する。 d:法に関する見方や考え方を把握し、法の意義を理解する。	定期試験 ワークシート 課題 授業中の観察
				人権保障と法の支配				○		
				議会制民主主義と世界の政治体制				○		
			4	日本国憲法の基本原理	○			○	a:日本国憲法をめぐる論点について関心を高める。 b:基本的人権について理解を深め、その本質を把握する。 d:日本国憲法の三大原理について理解する。 d:「公共の福祉」の概念について理解する。	
				平和主義と自衛隊				○		
				基本的人権の保障と新しい人権				○		
		8	国会の組織と立法	○			○			
			内閣の機構と行政				○	a・d:国会、内閣、裁判所にふれながら、主権者としての政治に対する関心を高める。		
			裁判所の機能と司法制度	○			○	a:政党政治の特徴を理解しながら、政治への関心を高める。 b:日本国憲法下での立法・行政・司法のあり方について幅広い視点から考察する。		
			地方自治制度と住民の権利				○	b:政治的無関心の広がりについて考察する。 c:報道資料などから自分の住んでいる地域の実情を調査する。		
			政党政治と選挙制度	○						
			民主政治における世論の役割				○			
8	現代の国際政治と日本	8	国際社会と国際法				○	a:冷戦終結後の国際社会の動向について関心を高める。 b:民族紛争を例に、複雑な国際関係を幅広い視点から考察する。 c:メディアを利用して調査し、国際平和のために日本が貢献できることについて、多角的な視点で考察する。 d:国際社会の成立過程を把握する。		
	国際連合の組織と役割					○				
	国際政治の動向					○				
	国際紛争と難民問題		○				d:国際連合の役割、国際連合が抱えている課題について理解する。			
	軍備管理と軍縮					○				
	日本の外交と国際平和への役割		○							
現代の経済	現代経済のしくみと特質	4	経済社会の発展				○	a:企業の社会的責任について関心を高める。 b:社会主義経済の特徴と比較し、現代経済の特質について理解する。 c:諸資料を利用して、日本と諸外国の経済の現状を比較する。 d:「需要と供給との関係」について、正しく理解する。	定期試験 ワークシート 課題 授業中の観察	
			経済主体と経済活動	○			○			
			市場経済の機能と限界				○			
			経済成長と景気変動				○			
		4	物価の動き				○			a:財政の基本的なしくみや役割について関心を高める。 b:物価の変動が国民経済に及ぼす影響について考察する。 c:公債残高の膨張が将来に及ぼす影響を考察する。 d:金融のしくみや役割を理解する。 d:公害などの社会問題が発生したことを認識する。
			金融のしくみとはたらき				○			
			財政のしくみとはたらき	○			○			
			日本経済の歩み				○			
		4	中小企業の地位と役割				○	a:高度情報社会の課題について理解し、関心を高める。 b:日本の農業が直面している課題について考察する。 c:消費者問題の現状について諸資料を利用して調査する。 d:中小企業が果たしている役割について理解する。		
			農業の現状と課題				○			
			消費者問題				○			
			高度情報社会の進展と課題	○				d:クレジットやローンや多重債務問題について理解する。		
3	労働問題				○	○	b:日本の社会保障制度を体系的に捉えるとともに、現在の制度上の問題点と課題について考察する。 c:メディアを利用して、最近の労働問題を調査する。			
	社会保障制度の充実				○					
	環境保全と資源・エネルギー問題				○	d:原子力発電・新エネルギーのメリット・デメリットを理解する。				

後	国民経済と国際経済	5	国際経済のしくみ				<input type="radio"/>	a: グローバリゼーションにともなうヒト、モノ、カネの国際的な移動が、国際経済に与える影響について、関心を高める。 b: 日本が南北問題の解決に向けてどのような役割が期待されているか考察する。 c: FTA・EPAについて諸資料を利用しながら考察する。 d: 国際経済に関する基本的な概念や理論を理解する。 e: 円高・円安が国内の産業にどのように影響するか理解する。	
			国際協調と国際経済機関の役割				<input type="radio"/>		
			地域的経済統合				<input type="radio"/>		
			グローバル化する経済	<input type="radio"/>					
			南北問題と日本の役割	<input type="radio"/>					
	現代社会の諸課題	現代日本の政治や経済の諸課題	3	少子高齢社会と社会保障				<input type="radio"/>	b: 現代社会の諸課題について、客観的な立場に立って望ましい解決のあり方を考える。 c: 現代社会の諸課題について探究し、さまざまなメディアや聞き取りなどによって調査する。 b・c: 調査結果をもとに、話しあい・発表・レポート・小論文などの言語活動によって自分の意見を表現する。 d: 現代社会の諸課題について理解を深める。
				地域社会の変貌と住民生活				<input type="radio"/>	
				雇用と労働をめぐる問題				<input type="radio"/>	
				産業構造の変化と中小企業				<input type="radio"/>	
				農業と食料問題				<input type="radio"/>	
国際社会の政治や経済の諸課題		3	地球環境と資源・エネルギー問題	<input type="radio"/>				b: 現代社会の諸課題について、客観的な立場に立って望ましい解決のあり方を考える。 c: 現代社会の諸課題について探究し、さまざまなメディアや聞き取りなどによって調査する。 b・c: 調査結果をもとに、自分の意見を表現する。 a・d: 国際社会の諸課題について理解を深め、関心を高める。	
			国際経済格差の是正と国際協力				<input type="radio"/>		
			人種・民族問題と地域紛争				<input type="radio"/>		
			国際社会における日本の立場と役割				<input type="radio"/>		
まとめと総復習	問題演習 (センター試験過去問題)	20	問題演習 (センター試験過去問題)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	a: 授業で扱った問題を復習している・解き直しを行っている。 b: 政治・経済の基本的な知識を基にして、思考力を要するセンター試験過去問題を解く事ができる。 d: 語句問題などの知識を要するセンター試験過去問題を解くことができる。	
授業時数(50分授業)		70							

令和4年度 希望ヶ丘高等学校 全日制 年間指導計画

教科・科目	数学・数学Ⅲ	学年	第3学年	教科書	数研出版「改訂版 数学Ⅲ」
		単位数	6単位	副教材	数研出版「サクシード 数学Ⅲ」

学習目標
 平面上の曲線と複素数平面, 極限, 微分法および積分法についての理解を深め, 知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに, それらを積極的に活用する態度を育てる。

学習方法
 ○予習 教科書の例、例題等をよく見て練習問題等を解いてください。
 ○復習 授業で解いた問題をもう一度解いてください。さらに、参考書や節末章末の問題も解いてください。
 ○授業 とにかく先生の話をしっかり聞いてください。数学の考えを学ぶ上では、とても大切だと思います。50分授業で、ペースが速いので、ゆっくりと板書を写しては授業についていけないと思います。大事なことや必要なことは教科書に書きこむようにしたほうがいいでしょう。なお、授業で理解できなかった事項や解けなかった問題等はそのまましないで必ず解決してから次の授業に臨んでください。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨			
	a	関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらの事象の考察に積極的に活用して数学的論拠について判断しようとする。			
	b	数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。			
	c	数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。			
	d	知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。			

学期	内容のまとめ	単元(題材)	時数	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	第3章 関数	分数関数 無理関数 逆関数と合成関数	8	分数関数		○			b: 分数関数・無理関数および逆関数と合成関数を学び、関数概念について理している。 c: 分数関数・無理関数のグラフをかくことができる。	課題/宿題 小テスト 定期テスト
				無理関数		○				
				逆関数と合成関数				○		
	第4章 極限	数列の極限	15	数列の極限			○	○	a: 無限等比級数の収束, 発散を, 公比の値で調べられる。 b: 微分法, 積分法の基礎として極限の概念を理解し, それを数列や関数値の極限の考察に活用できるようにする。 c: 収束する数列の極限値の性質を理解し, それを用いて, 数列の極限が求められる。 d: 無限級数の収束, 発散を判定する条件を理解し, それを利用できる。	課題/宿題 小テスト 定期テスト
				無限等比数列		○	○			
				無限級数	○	○				
	第5章 微分法	関数の極限	15	関数の極限		○			a: 関数の極限値の性質を利用して, 関数の極限値が求められる。三角関数を含む関数の極限値が求められる。 b: 関数の極限に関する用語・記号を正しく理解している。 c: 中間値の定理を利用して, 方程式の実数解の存在を示すことができる。	課題/宿題 小テスト 定期テスト
				三角関数と極限	○	○				
				関数の連続性				○		
	第5章 微分法	微分法	10	微分係数と導関数	○				a: 種々の関数の第n次導関数が求められる。 b: 微分係数の図形的意味を考察しようとする。 c: 導関数の性質, 積の導関数, 商の導関数, 合成関数の微分法, 逆関数の微分法を利用して, 種々の導関数を計算できる。 方程式 $F(x, y) = 0$ を関数とみて, 合成関数の導関数を利用して微分できる。 媒介変数で表された関数の導関数が求められる。	課題/宿題 小テスト 定期テスト
導関数の計算					○					
いろいろな関数の導関数					○					
第n次関数						○				
関数のいろいろな表し方と導関数							○			
第6章 微分法の応用	微分法の応用	14	接線と法線		○			a: 微分法を用い接線の方程式が求められる。 b: 微分法を用いて, 関数の値の増減やグラフの凹凸などを考察し, 微分法の有用性を認識するとともに, 具体的な事象の考察に活用できるようにする。 c: 導関数, 第2次導関数を利用して, 増減, 凹凸, 変曲点, 漸近線などを調べて関数のグラフをかくことができるようになる。 d: 不等式の証明問題, 方程式の実数解の個数問題を解くことができる。	課題/宿題 小テスト 定期テスト	
			平均値の定理		○					
			関数の値の変化			○				
			関数最大と最小				○			
			関数のグラフ			○	○			
			方程式・不等式への応用							○
第6章 微分法の応用	速度と近似式	8	速度と加速度		○			a: ベクトルの成分を微分することによって, 速度ベクトル, 加速度ベクトルが求められることを理解し, 実際に求めることができる。 c: 導関数を利用して, 関数の近似式を作ったり, 近似値を求めることができる。	課題/宿題 小テスト 定期テスト	
			近似式				○			

学期	内容のまとめ	単元(題材)	時数	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	第7章 積分法	不定積分	8	不定積分とその基本性質	○				a:様々な工夫によって被積分関数を変形することで、不定積分が求められるようになる。 b:簡単に不定積分の計算ができないとき、変数の置換をどのようにすればよいかを考え、置換積分を利用することができる。 c:置換積分法を理解し、それを利用して複雑な関数の不定積分が求められる。被積分関数の特徴を見て部分積分を利用して複雑な関数の不定積分が求められる。 d:いろいろな関数についての積分法を理解し、活用できるようになるとともに、定積分と和の極限の関係を理解する。	課題/宿題 小テスト 定期テスト
				置換積分法		○	○			
				部分積分法				○		
				いろいろな関数の不定積分	○			○		
	第7章 積分法	定積分	8	定積分とその基本性質	○				a:定積分の定義や性質を利用し、種々の関数の定積分の計算方法がでている。 b:上端がxである定積分を、xの関数とみることができるようになる。 上端、下端がともに定数である定積分を含む関数を、定積分を定数とおくことで求められるようになる。 数列の和を長方形の面積の和としてとらえ、その極限を適当な関数の定積分で表して求められるようになる。 関数の大小とその関数の定積分の大小との関係について理解する。 c:定積分の部分積分法を理解し、それを利用して複雑な関数の定積分を計算できるようになる。 d:いろいろな関数についての積分法を理解し、活用できるようになるとともに、定積分と和の極限の関係を理解する。	課題/宿題 小テスト 定期テスト
				定積分の置換積分法				○		
				定積分の部分積分法		○	○			
				定積分の種々の問題				○		
第8章 積分法の応用	積分法の応用	16	面積	○				a:数直線上を運動する点の位置の変化量や道のりを、定積分を用いて求めることができるようになる。 座標平面上の点が動く道のりを、定積分を用いて求めることができるようになる。 b:曲線の方程式が媒介変数表示や、 $y=f(x)$ の形で与えられているとき、曲線の長さを定積分を用いて求めることができる。 c:グラフの上下関係、積分範囲などを図にかいて考察して、種々の曲線で囲まれた部分の面積を求めることができるようになる。 d:積分法の有用性を認識するとともに、図形の求積などに活用できるようにする。	課題/宿題 小テスト 定期テスト	
			体積				○			
			曲線の長さ		○					
			速度と道のり	○						
後期	第1章 複素数平面	複素数平面	15	複素数平面		○	○	b:複素数を複素数平面を用いて図形的に表現することで、複素数の諸演算が平面上の図形的な性質として表されることを理解するとともに、複素数を用いて図形の性質を考察できるようになる。 d:極形式の定義を理解し、複素数を極形式で表すことができる。複素数の積、商の絶対値、偏角の性質を理解し、それらを求め、活用することができる。	課題/宿題 小テスト 定期テスト	
				複素数の極形式と乗法、除法		○	○			
				ド・モアブルの定理		○	○			
				複素数と図形		○	○			
	第2章 式と曲線	2次曲線	15	放物線	○			a:2次曲線を解析幾何学的方法で考察することに意欲的に取り組もうとする。 b:2次曲線の基本的な性質および曲線がいろいろな式で表現できることを理解し、具体的な事象の考察に活用できるようにする。2次曲線の焦点の性質について理解している。 c:放物線の焦点、準線、頂点を求めることができる。 放物線の方程式を求め、その概形を描くことができる。 d:放物線、楕円、双曲線を離心率eと1との大小関係で統一的に取り扱い、その方程式を、離心率eをもとに求められる。	課題/宿題 小テスト 定期テスト	
				楕円		○	○			
				双曲線						○
				2次曲線の平行移動						○
				2次曲線と直線						○
		媒介変数表示と極座標	18	曲線の媒介変数表示		○		b:2次曲線の基本的な性質および曲線がいろいろな式で表現できることを理解し、具体的な事象の考察に活用できるようにする。 c:媒介変数表示や極方程式で表された曲線をコンピュータで描き、それらを考察することができる。 d:直交座標と極座標の関係を理解している。	課題/宿題 小テスト 定期テスト	
	極座標と極方程式						○			
	コンピュータといろいろな曲線						○			
総合演習	入試対策	30	入試対策	○	○	○	○	a:授業で扱った問題を復習している・解き直しを行っている。 b:数学Ⅲの基本的な知識を基にして、入試問題を解く事ができる。 c:時間内に正確に解く事が出来る。 d:数学Ⅲの基本的な知識を身につけている。	課題/宿題 小テスト 定期テスト	
総合演習	入試対策	30	入試対策	○	○	○	○	a:授業で扱った問題を復習している・解き直しを行っている。 b:数学Ⅲの基本的な知識を基にして、入試問題を解く事ができる。 c:時間内に正確に解く事が出来る。 d:数学Ⅲの基本的な知識を身につけている。	課題/宿題 小テスト 定期テスト	
授業時数(50分授業)			210							

令和4年度 希望ヶ丘高等学校 全日制 年間指導計画

教科・科目	数学・数学研究A	学年	第3学年	教科書	自主教材
		単位数	2単位	副教材	教研出版「35日完成！大学入学共通テスト対策 数学 I A」

学習目標 数学における概念や原理や法則の理解を深め、事象を数学的に考察し、処理する能力を高めるとともに、数学的な見方や考え方を認識し、それらを活用する態度を育てることを目指す。数学研究Aでは、数学における知識の確認と、大学入試問題の解法を理解することにより、問題解決能力の研鑽及び向上を図ります。主として大学入学共通テストの対策問題を使い、多角的なアプローチによる解法を理解できることを目標とする。

学習方法

(1)大学入試について
 高得点をめざすためには、次のようなことに気をつけて勉強しましょう。
 ① 早く正確な計算力を身につける。 ② 適切な図やグラフをかいて考える。
 ③ 頻出問題の解法をしっかり記憶する。
 (2)「わかる」と「解ける」は違う
 「わかる」(理解できる)ということと、自分で問題が「解ける」ということの間には相当な隔たりがあります。入試では自分で問題が「解ける」ようになっている必要があります。数学の実力は解いた問題数に比例します。必ず自分の手を動かして問題を解いてみましょう。
 (3)予習について
 問題演習の時間での予習とは問題を解いて授業に臨むということですが、解けない問題もあるはずですが、その場合次のことを実行し、問題を整理しておきましょう。
 ① 問題文にかいてあるわからない言葉は教科書や参考書で調べる。
 ② 問題で与えられている条件や隠れている条件を書き出してみる。
 ③ グラフ、図を丁寧にかいてみる。
 (4)復習について
 数学で実力をつけるために一番大切なことは復習です。自分で問題が「解ける」ようにするために、不足している知識や思考方法を定着させるのが復習です。
 ① 授業があった日(記憶の新しいうち)にする
 ② 問題のポイントは、何であったか思いだし確認する。
 ③ ノートに書いた解答を見ないで、予習のとき解けなかった問題を解き直す。

評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
a	関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらの事象の考察に積極的に活用して数学的論拠について判断しようとする。
b	数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。
c	数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
d	知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。

学期	内容のまとめ	単元(題材)	時数	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	数学 I	数と式 集合と命題	6	数と式	○	○			a:数と式、集合と命題に関する問題を考察しようとする。 b:基本的な定理を基に、根拠を述べ考察し、思考することができる。 c:数と式、必要十分条件、逆裏対偶に関する基本的な性質を理解している。	課題/宿題 小テスト 定期テスト
		2次関数	6	二次関数	○	○	○		a:2次関数に関する問題を考察しようとする。 b:2次関数の性質を利用した問題演習を通し、応用的な問題に活用することができる。 c:最大、最小の値を性格に計算できる。	課題/宿題 小テスト 定期テスト
		図形と計量	6	図形と計量	○		○	○	a:図形と計量に関する問題を考察しようとする。 c:三角形の面積や空間図形の問題を正確に計算できる。 d:三角形の相互関係、正弦定理・余弦定理を理解している。	課題/宿題 小テスト 定期テスト
		データと分析	6	データと分析	○	○	○		a:データの分析に関する問題を考察しようとする。 b:基本的な知識を基にして、データを正しく読み取り、考察することができる。 c:データの代表値、散らばり、分散、標準偏差を理解	課題/宿題 小テスト 定期テスト
前期	数学A	場合の数と確率	5	場合の数と確率	○		○	○	a:場合の数と確率に関する問題を考察しようとする。 c:場合の数、和の法則、積の法則、順列、組合せ、確率の定義、基本性質を理解し、反復試行の確率、条件付き確率を正確に計算できる。 d:場合の数、和の法則、積の法則、順列、組合せ、確率の定義、基本性質を理解	課題/宿題 小テスト 定期テスト
		図形の性質	5	図形の性質	○		○	○	a:図形の性質に関する問題を考察しようとする。 c:空間図形及び多面体を理解し正確に計算できる。 d:角の二等分線と比、三角形の面積比、外心、内心、重心、チェバ・メネラウスの定理、円周角の定理、方べきの定理、空間図形の位置関係、多面体の性質を理解している。	課題/宿題 小テスト 定期テスト

学期	内容のまとめ	単元(題材)	時数	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
後期	数学A	整数の性質	5	整数の性質	○			○	a: 整数の性質に関する問題を考察しようとする。 b: 式と証明について理解を深め、二次方程式や高次方程式について、活用できるようにする。 d: 自然数の倍数の判定法、素因数分解、最大公約数、最小公倍数、ユークリッドの互除法、1次不定方程式、方程式の整数解、n進法、循環小数、有限小数の問題を理解している。	課題/宿題 小テスト 定期テスト
	総合演習	入試対策	11	入試対策		○		○	b: 数学 I Aの基本的な知識を基にして、入試問題を解く事ができる。 c: 時間内に正確に解く事が出来る。 d: : 数学 I Aの基本的な知識を身につけている。	課題/宿題 小テスト 定期テスト
	総合演習	入試対策	20	入試対策		○		○	b: 数学 I Aの基本的な知識を基にして、入試問題を解く事ができる。 c: 時間内に正確に解く事が出来る。 d: : 数学 I Aの基本的な知識を身につけている。	課題/宿題 小テスト 定期テスト
授業時数(50分授業)			70							

令和4年度 希望ヶ丘高等学校 全日制 年間指導計画

教科・科目	数学・数学研究C	学年	第3学年	教科書	自主作成教材
		単位数	4単位	副教材	数研出版「キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B」

学習目標
 数学における概念や原理や法則の理解を深め、事象を数学的に考察し、処理する能力を高めるとともに、数学的な見方や考え方を認識し、それらを活用する態度を育てることを目指す。数学研究Cでは、数学における知識の確認と、大学入試問題の解法を理解することにより、問題解決能力の研鑽及び向上を図ります。主として理系大学入試の対策問題を使い、多角的なアプローチによる解法を理解できることを目標とする。

学習方法
 (1) 大学入試について
 高得点をめざすためには、次のようなことに気をつけて勉強しましょう。
 ① 早く正確な計算力を身につける。 ② 適切な図やグラフをかいて考える。
 ③ 頻出問題の解法をしっかりと記憶する。
 (2) 「わかる」と「解ける」は違う
 「わかる」(理解できる)ということ、自分で問題が「解ける」ということの間には相当な隔りがあります。入試では自分で問題が「解ける」ようになっていることが必要です。数学の実力は解いた問題数に比例します。必ず自分の手を動かして問題を解いてみましょう。
 (3) 予習について
 問題演習の時間での予習とは問題を解いて授業に臨むということですが、解けない問題もあるはずで、その場合次のことを実行し、問題を整理しておきましょう。
 ① 問題文にかいてあるわからない言葉は教科書や参考書で調べる。
 ② 問題で与えられている条件や隠れている条件を書き出してみる。
 ③ グラフ、図を丁寧に描いてみる。
 (4) 復習について
 数学で実力をつけるために一番大切なことは復習です。自分で問題が「解ける」ようにするために、不足している知識や思考方法を定着させるのが復習です。
 ① 授業があった日(記憶の新しいうち)にする
 ② 問題のポイントは、何であったか思いだし確認する。
 ③ ノートに書いた解答を見ないで、予習のとき解けなかった問題を解き直す。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨	
	a	関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらの事象の考察に積極的に活用して数学的論拠について判断しようとする。	
b	数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。		
c	数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。		
d	知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。		

学期	内容のまとめ	単元(題材)	時数	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	数学Ⅰ	数と式 集合と命題	7	数と式					b: 基本的な定理を基に、根拠を述べ考察し、思考することができる。 c: 複雑な式の展開・因数分解、1次不等式、絶対値を含む方程式・不等式を理解し正確に計算できる。 d: 数と式、必要十分条件、逆裏対偶に関する基本的な性質を理解している。	課題/宿題 小テスト 定期テスト
		2次関数	7	2次関数					a: 2次関数に関する問題を考察しようとする。 b: 2次関数の性質を利用した問題演習を通し、応用的な問題に活用することができる。 c: 最大・最小の値を性格に計算できる。	課題/宿題 小テスト 定期テスト
		図形と計量	7	図形と計量					a: 図形と計量に関する問題を考察しようとする。 c: 三角形の面積や空間図形の問題を正確に計算できる。 d: 三角形の相互関係、正弦定理・余弦定理を理解している。	課題/宿題 小テスト 定期テスト
		データと分析	6	データと分析					a: データの分析に関する問題を考察しようとする。 b: 基本的な知識を基にして、データを正しく読み取り、考察することができる。 c: データの代表値、散らばり、分散、標準偏差を理解	課題/宿題 小テスト 定期テスト
前期	数学A	場合の数と確率	7	場合の数と確率					a: 場合の数と確率に関する問題を考察しようとする。 c: 場合の数、和の法則、積の法則、順列、組合せ、確率の定義、基本性質を理解し、反復試行の確率、条件付き確率を正確に計算できる。 d: 場合の数、和の法則、積の法則、順列、組合せ、確率の定義、基本性質を理解	課題/宿題 小テスト 定期テスト
		図形の性質	7	図形の性質					a: 図形の性質に関する問題を考察しようとする。 c: 空間図形及び多面体を理解し正確に計算できる。 d: 角の二等分線と比、三角形の面積比、外心、内心、重心、チェバ・メネラウスの定理、円周角の定理、方べきの定理、空間図形の位置関係、多面体の性質を理解している。	課題/宿題 小テスト 定期テスト
		整数の性質	7	整数の性質					a: 整数の性質に関する問題を考察しようとする。 c: 式と証明について理解を深め、二次方程式や高次方程式について、活用できるようにする。 d: 自然数の倍数の判定法、素因数分解、最大公約数、最小公倍数、ユークリッドの互除法、1次不定方程式、方程式の整数解、n進法、循環小数、有限小数の問題を理解している。	課題/宿題 小テスト 定期テスト

学期	内容のまとめ	単元(題材)	時数	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
後期	数学Ⅱ	式と証明	6	式と証明	○	○		○	a:式と証明に関する問題を考察しようとする。 b:式と証明について理解を深め、二次方程式や高次方程式について、活用できるようにする。 c:二項定理、整式の除法、分数式の計算、恒等式、等式・不等式の証明を理解している。	課題/宿題 小テスト 定期テスト
		複素数と方程式	6	複素数と方程式	○			○	a:複素数と方程式に関する問題を考察しようとする。 c:虚数単位を定義することにより、数の概念を複素数まで拡張し、高次方程式を解くことができる。 d:解の判別、解と係数の関係、剰余の定理、因数定理、高次方程式を理解している。	課題/宿題 小テスト 定期テスト
		図形と方程式	5	図形と方程式	○	○		○	a:図形と方程式に関する問題を考察しようとする。 b:点と直線、円、軌跡と領域について理解を深め、活用できるようにする。 d:平面上の点、直線の方程式、円の方程式、円と直線の位置関係条件を満たす軌跡の方程式、方程式の表す領域を理解し、正確に計算できる。	課題/宿題 小テスト 定期テスト
		三角関数	5	三角関数	○			○	a:三角関数に関する問題を考察しようとする。 c:三角関数の加法定理を理解し、三角方程式、三角不等式、三角関数を含む関数の最大・最小について正確に計算できる。 d:三角関数について理解している。	課題/宿題 小テスト 定期テスト
	数学Ⅱ	指数関数と対数関数	7	指数関数と対数関数	○	○		○	a:指数関数と対数関数に関する問題を考察しようとする。 b:指数方程式、指数不等式、対数方程式、対数不等式、指数・対数を含む関数の最大・最小についての理解を深めようとする。 c:指数関数及び対数関数について理解を深め、正確に計算できるようにする。	課題/宿題 小テスト 定期テスト
		微分法と積分法	7	微分法と積分法	○	○		○	a:微分法と積分法に関する問題を考察しようとする。 b:微分法を用いて関数のグラフ、方程式・不等式への応用ができる。積分法を用いて、面積、体積への応用ができる。 d:微分・積分の考えを理解し、それらを用いて、関数の値の変化や、面積について活用できるようにする。	課題/宿題 小テスト 定期テスト
	数学B	ベクトル	8	ベクトル	○	○		○	a:ベクトルに関する問題を考察しようとする。 b:ベクトルの概念を理解し、ベクトルを用いて図形の性質や関係など、いろいろな事象について思考することができる。 c:ベクトルの基本、内積、内積の性質、位置ベクトル、空間図形を理解しいろいろな事象について活用できる。	課題/宿題 小テスト 定期テスト
		数列	8	数列	○	○		○	a:数列に関する問題を考察しようとする。 b:数列、漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを用いて事象を数学的に考察し活用できるようにする。 d:数列、漸化式と数学的帰納法について理解している。	課題/宿題 小テスト 定期テスト
	総合演習	入試対策	40	入試対策				○	b:数学ⅠAⅡBの基本的な知識を基にして、入試問題を解く事ができる。 c:時間内に正確に解く事が出来る。 d:数学ⅠAⅡBの基本的な知識を身につけている。	課題/宿題 小テスト 定期テスト
	授業時数(50分授業)			140						

令和4年度 希望ヶ丘高等学校 全日制 年間指導計画

教科・科目	理科・物理探究	学年	3学年	教科書	『総合物理1・2』啓林館
		単位数	3単位	副教材	『改訂ニューグローバル物理基礎+物理』東京書籍 『2022物理重要問題集』数研出版

学習目標
物理的な事象・現象についての学習・観察・実験や課題研究などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

学習方法
・予習よりも、授業後の復習に重点を置くこと。復習では、教科書本文を熟読すること。
・問題集『ニューグローバル』は授業復習用なので、授業進度に合わせて自学自習すること。
・『重要問題集』は大学受験対策用なので、授業進度に合わせて自学自習すること。
・問題演習の際は、図や式を丁寧にかくこと。また答えだけでなく解説を丁寧に読むこと。読んで分からない場合は、教科書に戻ること。

a	評価の観点	科目の評価の観点の趣旨
a	関心・意欲・態度	意欲的に物理的事象を探究する科学的態度を身につけようとする。(観点の比重20%)
b	思考・判断・表現	疑問点・問題点を見いだした自然事象を実証的・論理的に考えることができる。(観点の比重35%)
c	観察・実験の技能	観察・実験の技術を利用して自然の事象・現象を科学的に探究することができる。(観点の比重10%)
d	知識・理解	物理学を通じて、自然の事象・現象の基本的な概念・原理・法則を理解できる。(観点の比重35%)

学期	内容のまとめ	単元(題材)時数	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法	
				a	b	c	d			
前期	第2編 熱	第2章 気体分子の運動 5	1 気体の状態方程式		○		○	(a) 気体の状態と分子運動の関係に興味や探求心を持っている。 (b) 気体の状態と分子運動について、数式を用いて表現できる。 (c) 気体の状態変化に関する観察・実験などを行い、科学的に探究できる。 (d) 気体の状態方程式、内部エネルギー、熱力学の法則について理解している。	演習プリント等提出物 定期考査 実験レポート	
			2 気体分子の熱運動	○			○			
3 熱力学第1法則				○		○				
4 気体の状態変化と熱・仕事				○	○					
5 様々なエネルギーとその利用			○		○					
後期	第4編 電気と磁気	第1章 電場 15	1 静電気力	○			○	(a) 電荷どうしが及ぼしあう力の間にどのような法則が存在するのかに興味をもっている。 (b) 電場とポテンシャルの関係や、コンデンサーのエネルギーについて考察できる。 (c) 静電気の性質やコンデンサーの充放電について実験を通し説明できる。 (d) ガウスの原理を理解し、電荷のまわりの電場の強さや向きについて理解できる。	演習プリント等提出物 定期考査 実験レポート	
			2 電場		○		○			
			3 電位		○		○			
			4 物質と電場		○		○			
			5 コンデンサー			○	○			
	後期	第4編 電気と磁気	第2章 電流 12	1 オームの法則	○			○	(a) 電流の流れ方は物質の種類などによってどのように異なるかということに興味をもっている。 (b) 半導体の性質を電子の動きから考察できる。 (c) 回路の測定実験を正しく行うことができる。 (d) キルヒホッフの法則を理解できる。	演習プリント等提出物 定期考査 実験レポート
				2 直流回路				○		
後期	第4編 電気と磁気	第3章 電流と磁場 12	1 磁場	○			○	(a) 磁石や磁気がわれわれの生活のさまざまなところで利用されていることに興味をもっている。 (b) 磁場中を運動する荷電粒子の運動がどのようなかを考察することができる。 (c) 平行電流が及ぼしあう力を実験を通して説明できる。 (d) 磁気量について、磁気力に関するクーロンの法則や磁場の定義の中でどのように使われているかを通して理解できる。	演習プリント等提出物 定期考査 実験レポート	
			2 電流のつくる磁場		○		○			
後期	第4編 電気と磁気	第4章 電磁誘導と電磁波 14	1 電磁誘導の法則	○			○	(a) 日常生活における電磁誘導の利用について興味をもっている。 (b) コイルやコンデンサーのそれぞれに交流電流が流れるときの周期的変化について考察できる。 (c) 渦電流の効果を実験で確認し、その効果と電磁誘導の関係について説明ができる。 (d) 電磁誘導の法則や交流回路について理解できる。	演習プリント等提出物 定期考査 実験レポート	
			2 交流の発生		○		○			
後期	第5編 原子	第1章 電子と光 8	1 電子	○			○	(a) 電子がどのようにして発見されたのか、また電子の電荷や質量はどのようにして測定されたのかに興味をもっている。 (b) 光の二重性について考察できる。 (c) ミリカンのモデル実験により電気素量を求めることができる。 (d) ブラッグ反射による結晶構造解析について理解している。	演習プリント等提出物 定期考査 実験レポート	
			2 光の粒子性		○		○			
後期	第5編 原子	第2章 原子と原子核 5	1 原子の構造とエネルギー準位	○			○	(a) 原子の構造について興味をもっている。 (b) 放射線による影響と放射線の利用にはどのようなものがあるか考察できる。 (c) スペクトルの観察によりエネルギー順位について説明できる。 (d) 原子の発するスペクトルは、原子核のまわりを回る電子がとびとびのエネルギー準位をもつことから説明されることを理解している。	演習プリント等提出物 定期考査 実験レポート	
			2 原子核		○		○			
後期	第5編 原子	第2章 原子と原子核 5	3 放射線とその性質		○	○		(a) 原子の構造について興味をもっている。 (b) 放射線による影響と放射線の利用にはどのようなものがあるか考察できる。 (c) スペクトルの観察によりエネルギー順位について説明できる。 (d) 原子の発するスペクトルは、原子核のまわりを回る電子がとびとびのエネルギー準位をもつことから説明されることを理解している。	演習プリント等提出物 定期考査 実験レポート	
			4 核反応と核エネルギー				○			
後期	第5編 原子	第2章 原子と原子核 5	5 素粒子				○	(a) 原子の構造について興味をもっている。 (b) 放射線による影響と放射線の利用にはどのようなものがあるか考察できる。 (c) スペクトルの観察によりエネルギー順位について説明できる。 (d) 原子の発するスペクトルは、原子核のまわりを回る電子がとびとびのエネルギー準位をもつことから説明されることを理解している。	演習プリント等提出物 定期考査 実験レポート	
			3 放射線とその性質		○	○				
	総合演習	30					○	(b) 問題演習を通して、発展的な考え方を身に付けられる。 (d) 知識を活かして、未知の現象についてとらえられる。	演習プリント	
授業時数(50分授業)		101								

令和4年度 希望ヶ丘高等学校 全日制 年間指導計画

教科・科目	理科・化学基礎研究	学年	第3学年	教科書	東京書籍「改訂 化学基礎」
		単位数	2単位	副教材	東京書籍「改訂 ニューグローバル化学基礎」 実教出版「サイエンスビュー化学総合資料四訂版」

学習目標
日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

学習方法
 ・教科書の内容に沿った自主教材(プリント)を作成・活用し、基本的な内容から発展的な内容を含めて学習を進める。
 ・単元ごとに練習問題に取り組む時間を設けることで、内容理解を深化させる。
 ・実験や観察を積極的に取り入れ、学習の理解を深める。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 物質に対する興味・関心を高め、それを化学的に捉える意欲・態度を身につけようとする。 化学的な事象・事象についての観察・実験などを意欲的にを行い、自然に対する関心や探求心を高めようとする。 事象・事象を化学的に探究する能力や態度を身につけようとする。
b	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 化学に関する基本的な概念や法則・原理・諸事項等をよく理解し、化学的な思考・判断ができる。 観察・実験結果などを化学的に考察し、結論を導くことができる。 化学の基本的な原理や法則を理解し、さまざまな事象や事象にあてはめて考え、表現することができる。 	
c	観察・実験の技能	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えで仮説を立て、それをもとに観察・実験を適切に行い、的確な結果を得ることができる。 観察・実験結果をくふうしてまとめることができる。 	
d	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 化学の基本的な概念や諸事項、原理・法則等を理解している。 化学的に探究する活動を通して、科学的な自然観を身につけている。 	

学期	内容のまとめ	単元(題材)	時数	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	第1編 物質の構成	1章 物質の成分と 構成元素	7	物質の成分	○				a:物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとする。 b:混合物の分離や成分元素の確認などの実験の原理を考察できる。 c:混合物の分離や成分元素の確認などの実験を理解し、物質を探究する具体的方法を身につけている。基本的な実験器具の名称と使用法を習得する。 d:物質の構造や性質に関する基本的な概念を理解し、知識を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 実験プリント(レポート) 課題提出 定期テスト
				物質の構成元素		○	○			
				物質の三態		○	○			
		2章 原子の構造と 元素の周期表	7	原子の構造	○				a:物質に関心をもち、物質の取り扱い方や人間生活における化学の役割を理解しようとする。物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとする。 b:原子は原子核と電子からなり、電子の状態が物質の状態に大きく寄与することを推論する。 d:物質の構造や性質に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。物質の構成粒子に関して理解し、知識を身に付けている。	
				電子配置と周期表	○	○				
		3章 化学結合	10	イオンとイオン結晶		○			a:物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとする。物質が原子・分子・イオンなどの構成粒子から成り立っていることを理解しようとする。 b:図や表のデータから物質の性質を分析できる能力を身につけている。	
				分子と共有結合	○				d:物質の構造や性質に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。物質の構成粒子に関して理解し、知識を身に付けている。	
				金属と金属結合		○				
物質の分類	○									
第2編 物質の変化	1章 物質と 化学反応式	10	原子量・分子量・式量	○				a:化学変化の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。状態変化と構成粒子の熱運動を関連付けて考察しようとする。 b:原子量・分子量・式量・物質量を理解し物質量を用いた簡単な計算ができる。化学変化では、一定の量的関係が成り立つことを考察する。 c:基本的な実験器具の名称と使用法を習得する。測定結果から量的関係を的確に表現する。観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりする。 d:物質の構造や性質に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。物質の構成粒子に関して理解し、知識を身に付けている。化学式を使用できるとともに、原子量・分子量・式量・物質量の知識を身に付けている。物質量の概念で化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身に付けている。		
			物質量		○					
			溶液の濃度		○					
			化学変化と化学反応式	○						
			化学反応式と量的関係	○		○				
後期	2章 酸と塩基の 反応	10	酸と塩基		○			a:化学変化の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。燃焼、金属の溶解や腐食などの反応に興味をもち、それらを電子の授受という観点から意欲的に探究しようとする。 b:化学変化では、一定の量的関係が成り立つことを考察する。観察、実験を通して、酸化・還元反応の定義と、酸化数の定義の有効性を理解し、それらをもとに事象・現象の中に共通性を見出し、酸化還元反応として論理的に考察する。 c:代表的な酸化剤・還元剤の観察から電子の授受としての規則性を見出し、自らの考えで表現できる。 d:物質量の概念で化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身に付けている。酸化・還元反応の定義を理解し、知識を身に付けている。		
			水素イオン濃度とpH	○	○					
			中和反応と塩の生成		○	○				
			中和滴定	○		○				
第2編 物質の変化	3章 酸化還元 反応	6	酸化と還元		○			(a)化学変化の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。燃焼、金属の溶解や腐食などの反応に興味をもち、それらを電子の授受という観点から意欲的に探究しようとする。 (b)化学変化では、一定の量的関係が成り立つことを考察する。観察、実験を通して、酸化・還元反応の定義と、酸化数の定義の有効性を理解し、それらをもとに事象・現象の中に共通性を見出し、酸化還元反応として論理的に考察する。 (c)代表的な酸化剤・還元剤の観察から電子の授受としての規則性を見出し、自らの考えで表現できる。 (d)物質量の概念で化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身に付けている。酸化・還元反応の定義を理解し、知識を身に付けている。		
			酸化剤と還元剤		○	○				
			金属の酸化還元反応	○		○				
			酸化還元反応の応用	○		○				
問題演習		20			○	○				
授業時数(50分授業)			70							

令和4年度 希望ヶ丘高等学校 全日制 年間指導計画

教科・科目	理科・化学探究	学年	第3学年	教科書	東京書籍「改訂 化学」
		単位数	3単位	副教材	第一学習社「セミナー化学」 実教出版「サイエンスビュー 化学総合資料」

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・化学的な事物・現象についての観察・実験や探究活動を行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う。 ・化学についての応用的、発展的な課題を設定し、観察、実験などを通して研究を行い、化学的に探究する方法や問題解決の能力を身に付ける。
------	---

学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 化学的な事物・現象に対して自ら探求し、基本的な原理・法則について学習します。 ○ 実験では仮説を立て、観察、結果、考察を通して化学的な事物・現象の理解に努めます。 ○ 単元ごとに課題プリントを配布します。積極的に取り組み、演習する習慣をつけましょう。
------	---

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨			
	a	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・物質に対する興味・関心を高め、それを化学的に捉える意欲・態度を身につけようとする。 ・化学的な事物・事象についての観察・実験などを意図的に、自然に対する関心や探求心を高めようとする。 ・事物・事象を化学的に探究する能力や態度を身につけようとする。 			
b	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・化学に関する概念や法則・原理・諸事項等をよく理解し、化学的な思考・判断ができる。 ・観察・実験結果などを化学的に考察し、結論を導くことができる。 ・化学の原理や法則を理解し、さまざまな事物や事象にあてはめて考えることができる。 				
c	観察・実験の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えで仮説を立て、それをもとに観察・実験を適切に行い、的確な結果を得ることができる。 ・観察・実験結果をくふうしてまとめることができる。 				
d	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・化学の概念や諸事項、原理・法則等を理解している。 ・化学的に探究する活動を通して、科学的な自然観を身につけている。 				

学期	内容のまとめ	単元(題材)	時数	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	第3編 化学反応の速さと平衡	1章 化学反応の速さ	12	反応の速さ	○				a.化学反応の速さが反応物の濃度、圧力、温度や触媒によって変わることに ついて、探究しようとする。 b.濃度や圧力、温度を変えることによって化学反応の速さが変化する原理を考 察する。 d.化学反応の速さと、反応物の濃度や圧力、温度との関係を理解し、知識を身 に付けている。	提出物 実験レポート 定期考査
		反応の速さを決める条件		○						
		反応のしくみ			○					
	2章 化学平衡	12	可逆変化と化学平衡	○				a.化学平衡とその移動に関心をもち、意欲的に探究しようとする。 b.化学平衡は、正反応の速さと逆反応の速さが等しくなった状態であることを考 察する。		
	平衡の移動		○	○	○					
	3章 水溶液中の化学 平衡	10	電離平衡		○			c.平衡移動の方向と、濃度、圧力、温度との関係を調べる方法を示すことが できる。 d.平衡定数の意味を理解し、知識を身につけている。		
第5編 有機化合物	1章 有機化合物の特徴 と構造	2	有機化合物の特徴	○				a.芳香族炭化水素や、官能基をもつ芳香族化合物の性質や反応に関する事 物・現象に関心をもち、その構造や性質、反応性について意欲的に探究しよ うとする。 b.構造式から性質や反応性を考察、判断できる。	提出物 実験レポート 定期考査	
	有機化合物の構造式の決定		○							
	2章 炭化水素	4	飽和炭化水素	○				d.有機化合物の性質が官能基によって特徴づけられることをフェノール類、ニ トロ化合物、アミン類などを通して理解している。		
3章 アルコール関連 化合物	6	アルコールとエーテル	○				a.界面活性剤や染料、医薬品、単糖・二糖、α-アミノ酸について、意欲的にそ れらを探究しようとする。 b.糖類、α-アミノ酸の性質を考察し表現できる。			
		アルデヒドとケトン	○		○		c.単糖・二糖、α-アミノ酸の性質や反応について実験を行い、その基本操 作を習得している。			
		カルボン酸とエステル	○		○		d.界面活性剤などに関する知識を身につけている。			
第5編 有機化合物	4章 芳香族化合物	5	芳香族炭化水素	○	○			a.芳香族炭化水素や、官能基をもつ芳香族化合物の性質や反応に関する事 物・現象に関心をもち、その構造や性質、反応性について意欲的に探究しよ うとする。 b.構造式から性質や反応性を考察、判断できる。	提出物 実験レポート 定期考査	
	酸素を含む芳香族化合物		○							
後期	第6編 高分子化合物	5章 有機化合物と人間 生活	2	食品	○			a.界面活性剤や染料、医薬品、単糖・二糖、α-アミノ酸について、意欲的にそ れらを探究しようとする。 b.糖類、α-アミノ酸の性質を考察し表現できる。	提出物 実験レポート 定期考査	
		医薬品		○		○		c.単糖・二糖、α-アミノ酸の性質や反応について実験を行い、その基本操 作を習得している。		
		染料		○				d.界面活性剤などに関する知識を身につけている。		
1章 高分子化合物	4	高分子化合物			○			a.高分子化合物に関する事物・現象に関心をもち、その構造や性質、働きを意 欲的に探究しようとする。 b.高分子化合物の性質を科学的に考察する。 d.高分子化合物の性質と利用について理解し、知識を身につけている。		
		2章 天然高分子化 合物	8	単糖類・二糖類		○			a.天然繊維、天然ゴム、核酸について関心をもち、意欲的にそれらを探究しよ うとする。 b.単糖・二糖と多糖、α-アミノ酸とタンパク質の関連について考察する	
				多糖類	○	○			d.多糖やタンパク質の性質や反応に関する基本的な概念や原理・法則を理解 し、知識を身につけている。	
				アミノ酸	○					
タンパク質	○	○								
核酸	○									
3章 合成高分子化 合物	5	合成繊維	○		○		a.合成繊維に関する事物・現象に関心をもち、その構造や性質、働きを意欲 的に探究しようとする。 b.合成繊維の性質を科学的に考察する。 c.合成繊維の実験を行い、その基本操作を習得している。			
プラスチック			○				d.合成繊維の性質と利用について理解し、知識を身につけている。			
ゴム			○							
4章 高分子化合物と人 間生活	2	プラスチック利用の拡大と環境問題			○			a.機能性高分子と合成ゴムについて探究する。 b.機能性高分子と合成ゴムの性質について科学的に考察する。 d.機能性高分子と合成ゴムの性質を理解している。		
問題演習	33				○			b.問題演習を通して、発展的な考え方が身につけられている。 d.知識を活かして、未知の現象をとらえられる。	定期考査	
授業時数(50分授業)		105								

令和4年度 希望ヶ丘高等学校 全日制 年間指導計画

教科・科目	理科・生物探究	学年	第3学年	教科書	数研出版「改訂版生物」
		単位数	3単位	副教材	第一学習社『改訂セミナー生物』 実教出版「四訂版 サイエンスビュー 生物総合資料」

学習目標	生物に対する関心を高め、生物や生物現象についての観察、実験や課題研究などを行い、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則の系統的な理解を深め、科学的な自然観を育成する。
------	---

学習方法	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の内容に沿った自主教材(プリント)を作成し、基本的な内容から発展的な内容を含めて学習を進める。 単元ごとに練習問題や思考学習をグループ学習を取り入れて理解を進めていく。 実験や観察を積極的に取り入れ、学習の理解を深める。
------	---

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨			
	a	関心・意欲・態度	生物や生物現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。			
	b	思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探求する課程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。			
	c	観察・実技の技能	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの課程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。			
	d	知識・理解	観察、実験などを通して生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。			

学期	内容のまとめ	単元(題材)	時数	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	第1編 生命現象と物質	第三章 遺伝情報の発現のまとめ	14	遺伝子の発現からバイオテクノロジーの演習	○			○	a: 遺伝子情報とその発現のしくみをDNAの分子構造から理解しようとしたか。 b: DNAからタンパク質がつくられる過程を化学的な視点から理解し、バイオテクノロジーのしくみとその問題点を考えることができたか。 c: バイオテクノロジーの手順を理解し、基本的な操作をすることができたか。 d: 遺伝子情報とその発現のしくみをDNAの分子構造から理解できたか。	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 実験・観察プリント(レポート) 定期テスト
				バイオテクノロジー		○	○			
	第2編 生殖と発生	第四章 生殖と発生	22	遺伝子と染色体、減数分裂と遺伝情報の分配	○			○	a: 1つの細胞から分裂、分化することにより複雑な形がつくられる過程を理解しようとしたか。 b: 遺伝子の分配と形質発現のつながりを理解できたか。また、複雑な形がつくられる過程を分子的なレベルで理解できたか。 c: 受精卵から卵割し、幼生になる過程を観察することで、その過程の理解を深めることができたか。 d: 1つの細胞から分裂、分化することにより複雑な形がつくられる過程を理解できたか。	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 実験・観察プリント(レポート) 定期テスト
遺伝子の多様な組み合わせ、動物の配偶子形成と受精					○	○				
初期発生の過程、細胞の分化と形態形成					○	○				
植物の配偶子と発生				○	○					
第3編 生物の環境応答	第六章 植物の環境応答	15	植物の生活と環境応答	○			○	a: 植物の反応のしくみについて理解しようとしたか。 b: 植物の刺激の受容とそれに対する反応について、分子的なレベルで理解できたか。 c: 植物の反応について行われた実験について正しく理解し、実験からえられることを整理できたか。 d: 植物が起こす反応が理解できるよう、実験やその結果を正しく理解できたか。	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期テスト 	
			発芽の調節、成長の調節		○	○				
			環境の変化に対する応答		○	○				
			花芽形成、結実の調節		○	○				
後期	第5編 生物の進化と系統	第八章 生命の起源と進化	12	生命の起源	○			○	a: 生命の進化の過程を理解しようとしたか。 b: 進化の過程を要不要の観点ではなく、淘汰や遺伝的浮動の観点から理解できたか。 c: 進化の過程を生物の形態や性質を踏まえて理解できたか。 d: 進化の変遷を時系列的に理解し、また起こった変化を知識として得ることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期テスト
			生物の変遷	○			○			
			進化のしくみ		○	○				
			進化の証拠	○			○			
	第9章 生物の系統	12	生物の分類と系統	○	○			a: 生物の多様性について、系統立てて理解しようとしたか。 b: 形態的な特徴にもとづいた分類ばかりでなく、DNAの塩基配列といった分子データにもとづいた系統を理解できたか。 c: 個々の分類群について、実際の生物と結び付けて理解できたか。 d: 個々の分類群について、それぞれの特徴を正しく理解し、共通性や多様性を理解できたか。	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 実験・観察プリント(レポート) 定期テスト 	
原核生物					○	○				
原生生物					○	○				
1年間のまとめ	生物基礎と生物の横断的な問題	30	恒常性		○		○	a: 生物基礎の内容を含め練習問題を解けるようにする。 b: 生物基礎の内容を含め複合的な問題を解けるようにする。 c: 生物基礎の内容を含め応用的な問題を解けるようにする。 d: 生物基礎の内容を含め発展的な問題を解けるようにする。	練習問題	
			センター試験対策		○		○			
			二次試験対策		○		○			
授業時数(50分授業)			105							

令和4年度 希望ヶ丘高等学校 全日制 年間指導計画

教科・科目	理科・Scuolaキャンプ	学年	第2学年	教科書	なし
		単位数	1単位	副教材	なし

学習目標	研究者の生活に触れ、研究手法を体験することで、視野を広げ研究課題の発見に役立てる。 大学の研究内容を知り、進路選択の参考にする。
------	---

学習方法	夏季休業中に2泊3日程度の校外学習を実施する。校外学習では実験実習に主体的、積極的に取り組むこと。 事前学習として希望理由書、実習に関する予備学習などをおこなう。また事後学習として報告書やポスターを作製し、必要に応じて発表する。
------	---

学習評価	評価の観点	科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度
b	思考・理解・表現	自然や社会的事象の中に問題を見いだして探究することができ、事象を科学的に理解して的確に表現することができた。
c	協働・実験の技能	実験などの基本操作を習得し、その過程や結果を的確に記録して考察することができた。また、協働して探究する技能を身に付けることができた。
d		

学期	内容のまとめ	単元(題材)	時数	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
年間		事前学習	5	参加希望理由書	○	○			a: 内容に対して興味関心をもち意欲的に参加している b: 基礎知識を身に付けた c: 準備を他の参加者と協働してすすめる	提出物
				事前学習		○				
				班編成等			○			
		宿泊学習	24	講義	○	○			a: すべての実験実習に積極的に取り組む b: 内容を理解し、正確に表現する c: 他の参加者と協働して実験実習に取り組む	提出物
				実験	○		○			
				実習、作業	○		○			
				成果のまとめ、発表		○	○			
		事後学習	6	報告書		○			a: 体験した内容と社会とのつながりを意識して。活動をまとめる b: 成果を正確に記述する c: 協働してポスターを作成し、発表する	提出物
				ポスター作製	○	○				
				発表		○	○			
授業時数(50分授業)			35							

令和4年度 希望ヶ丘高等学校 全日制 年間指導計画

教科・科目	理科・Scuolaセミナー	学年	第2学年	教科書	なし
		単位数	1単位	副教材	なし

学習目標	研究者の生活に触れ、研究手法を体験することで、視野を広げ研究課題の発見に役立てる。 研究内容を知り、進路選択の参考にする。
------	--

学習方法	3時間程度の外部講師による短期講座を実施する。実験実習に主体的、積極的に取り組むこと。 また、事前学習と事後学習として予備学習、事前レポート、報告書などを提出する。 年間7回以上実施し、各回で参加者を募集する。
------	---

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨			
	a	関心・意欲・態度	自然や社会的事象について、関心を持って意欲的に取り組み、科学的に探究する姿勢を身に付けることができた。			
	b	思考・理解・表現	自然や社会的事象の中に問題を見いだして探究することができ、事象を科学的に理解して的確に表現することができた。			
	c	協働・実験の技能	実験などの基本操作を習得するとともに、協働してその過程や結果を的確に記録して考察することができ、科学的に探究する技能を身に付けることができた。			
	d					

学期	内容のまとめ	単元(題材)	時数	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
年間			5	事前学習	○				a:興味関心をもって取り組む b:実験実習と理論との関連を理解する c:講義などで得た知識を実験操作や結果の分析に活用する	提出物等
		講義		○	○					
		実験実習		○		○				
		事後学習			○	○				
	授業時数(50分授業)		5							

令和4年度 年間指導計画

教科・科目	保健体育・体育	学年	3	教科書	なし
		単位数	3	副教材	ステップアップ高校スポーツ2020

学習目標
 各種の運動の合理的な実践を通して、運動の技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法
 ○「体育」は実技科目のため、毎時間への出席・取組みが重要になってきます。毎回出席をし、身体活動を行なう事が前提となっていますので積極的に活動してください。
 ○「体育」を学ぶ上で、重要なことは安全に活動するということです。思い切り、積極的に活動するためにも安全が確保されてなければいけません。具体的には以下の通りです。
 1 先生の指示をよく聞き、自分勝手な行動を取らない。
 2 ルールを遵守しプレイする。
 3 服装(アクセサリ、爪などを含む)を整える。 など
 ○「体育」では運動が上手になることばかりが目標ではありません。「合理的に活動をする」「公正・協力・責任などの態度を育てる」「運動の技能を高める」「体力の向上を図る」と多くの目標があります。
 また、全ての種目において1人で出来るものではありません。一緒に学ぶ友人達と上手にコミュニケーションを取って活動してください。精神的に安定が保たれていることで、より良いプレイができ、学習の効果もあがります。
 ○部活等により日頃の運動量や技能に差はありますが、常に自分を成長させるために向上心を持ち活動をしましょう。また、余裕のある人はリーダーシップを発揮し、周囲の人をまとめ、引っ張っていってくれることを期待します。
 ○最後に、生涯にわたってスポーツを楽しむために、高校時代に自分達で主体的に活動できるように成長してもらいたいと思います。授業での準備・片づけをはじめ、各種体育的行事で生徒主体の活動ができるように、「体育」の授業で学んでください。

評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
a	①関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く体験できるよう、公正・協力・責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して自ら運動しようとする。
b	②思考・判断	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。
c	③運動の技能	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行なうとともに、運動の技能を高めている。また自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行ない方を身に付けている。
d	④知識・理解	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。

学期	内容のまとめ	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法	
				a	b	c	d			
前期	種目選択Ⅰ ・体づくり運動 ハンドボール 男子 ・個人的技能 (パス、シュート、各種フェイスト) ・ゲーム、審判法	バスケットボール 男子 ・個人的技能 (パス、シュート・ドリブル) ・ゲーム、審判法	サッカー 女子 ・個人的技能 (キック、トラップ、フェイスト、1対1) ・ゲーム、審判法	バレーボール 女子 ・個人的技能 (各種パス、サーブ、スパイク) ・ゲーム、審判法	○	○	○	○	a: 運動に対して意欲的に取り組もうとしている。自分の役割を自覚し、互いに協力しながら練習や試合を行おうとしている。活動場所の安全を確認し、健康・安全に留意して活動しようとしている。 b: チームや自己の能力に応じた課題を設定することができる。その解決を目指して練習の仕方を工夫している。 c: 様々な運動技能を表現したり、高めることができる。 d: ルールを理解している。競技の特性について理解している。運動技能を高めるための練習方法を理解している。	授業観察 スキルテスト
	種目選択Ⅱ バドミントン ・個人的技能 (フックティング、フォアハンド、バックハンド) ・ゲーム、審判法	ソフトボール ・個人的技能 (ピッチング、キャッチボール、各種捕球、バットイング) ・ゲーム、審判法	卓球 ・個人的技能 (フォアハンド、バックハンドストローク) ・ゲーム、審判法	テニス ・個人的技能 (フォアハンドストローク、バックハンドストローク、サーブ、ボレー) ・ゲーム、審判法	○	○	○	○	a: 運動に対して意欲的に取り組もうとしている。自分の役割を自覚し、互いに協力しながら練習や試合を行おうとしている。活動場所の安全を確認し、健康・安全に留意して活動しようとしている。 b: チームや自己の能力に応じた課題を設定することができる。その解決を目指して練習の仕方を工夫している。 c: 様々な運動技能を表現したり、高めることができる。 d: ルールを理解している。競技の特性について理解している。運動技能を高めるための練習方法を理解している。	授業観察 スキルテスト
後期	種目選択Ⅲ ハンドボール女子 ・個人的技能 (パス、シュート、各種フェイスト) ・ゲーム、審判法	バスケットボール 女子 ・個人的技能 (パス、シュート・ドリブル) ・ゲーム、審判法	バレーボール 男子 ・個人的技能 (各種パス、サーブ、スパイク) ・ゲーム、審判法	サッカー 男子 ・個人的技能 (キック、トラップ、フェイスト、1対1) ・ゲーム、審判法	○	○	○	○	a: 運動に対して意欲的に取り組もうとしている。自分の役割を自覚し、互いに協力しながら練習や試合を行おうとしている。活動場所の安全を確認し、健康・安全に留意して活動しようとしている。 b: チームや自己の能力に応じた課題を設定することができる。その解決を目指して練習の仕方を工夫している。 c: 様々な運動技能を表現したり、高めることができる。 d: ルールを理解している。競技の特性について理解している。運動技能を高めるための練習方法を理解している。	授業観察 スキルテスト
	種目選択Ⅳ バドミントン ・個人的技能 (フックティング、フォアハンド、バックハンド) ・ゲーム、審判法	ソフトボール ・個人的技能 (ピッチング、キャッチボール、各種捕球、バットイング) ・ゲーム、審判法	卓球 ・個人的技能 (フォアハンド、バックハンドストローク) ・ゲーム、審判法	テニス ・個人的技能 (フォアハンドストローク、バックハンドストローク、サーブ、ボレー) ・ゲーム、審判法	○	○	○	○	a: 運動に対して意欲的に取り組もうとしている。自分の役割を自覚し、互いに協力しながら練習や試合を行おうとしている。活動場所の安全を確認し、健康・安全に留意して活動しようとしている。 b: チームや自己の能力に応じた課題を設定することができる。その解決を目指して練習の仕方を工夫している。 c: 様々な運動技能を表現したり、高めることができる。 d: ルールを理解している。競技の特性について理解している。運動技能を高めるための練習方法を理解している。	授業観察 スキルテスト